

明日の暮らし、ささえあう

CO・OP 共済



地域ささえあい助成

— 生協と他団体が協働する活動を応援します —

2022 年度 活動報告集

日本コープ共済生活協同組合連合会

はじめに

日本コープ共済生活協同組合連合会（以下「コープ共済連」）では、社会貢献活動として2012年度から「CO・OP共済 地域ささえあい助成」を開始し、2021年度末で丸10年を迎えました。この10年の節目を機に、前委員長である上野谷加代子先生（同志社大学名誉教授）から審査委員長を引き継ぎました。

2020年度にはこれまでの制度を振り返り、さらによりよい制度となるよう、新旧の審査委員、外部有識者、事務局が協議を重ねました。その中で、本助成制度では「協働」というキーワードを大切にすることが確認され、さらに「協働」の後押しができるよう、「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」「協働たかめる助成」という3つの協働区分をあらたに設けました。（注1）2022年度は、3つの区分のうち「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」を開始し、両区分合計で全国から40件のご応募をいただき、審査委員会での選考をもとに31件に対して総額19,113,993円の助成を決定しました（「協働はじめる助成」12件、「協働ひろめる助成」19件）。

選考ポイント

- ①本助成制度の趣旨にあった活動であるか
- ②ニーズにもとづき、地域の課題解決や発展につながる活動になっているか
- ③活動計画は実現可能か、収支計画は適切か
- ④助成終了後も活動を継続する意思があるか、将来の展望を描けているか

2022年度を振り返って…さらによりよい制度に、そして豊かな地域づくりにつなげていくために

2022年度も新型コロナウイルス感染症は収束せず、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻や、世界的なインフレーションによる物価高など、一段と厳しさを増す社会情勢が日々の生活に色濃く影を落としています。生活に困窮する人、社会から孤立する人、支援を必要とする人たちの数はこれまで以上に増えています。人々の価値観も多様化し、地域の課題は複雑化していますが、人と人、組織と組織がつながり、お互いを理解し認め合い、協働を重ね、目標を一致させながら「協働」の力でさまざまな課題に取り組んでいくことがますます必要となる時代です。

協同組合の100年を超える歴史のなかで、生協は常に人々の暮らしを見つめ、生活に根差した声を聴き、共感を束ねながら、時代とともに変化する課題に向きあってきた組織です。その生協と地域の多様な団体との「協働」を後押しする本助成制度に大きな可能性を感じています。さらに、助成金活用生協・団体の皆さんと一緒に学びながら、本制度がよりよいものに進化し続けられるよう、少しでもお役に立ちたいと思っています。

10周年記念企画の実施について

本助成制度の10周年を記念して、2021年度活動報告集から10年間を振り返る企画を掲載しています。今回は、本助成制度を活用し取り組まれた活動に参加された方々を対象に募集した「10年間の活動エピソード作文」企画に寄せられた作文を掲載しています（第5弾）。お寄せいただいた作文は、興味深いエピソードとともに、そこで活動してこられた皆様の熱い想いを感じる、大変読み応えのあるものばかりです。

作文や活動のご報告からは、本助成制度がこの10年間に数多くの素晴らしい活動の立ち上げを応援させていただいてきたことがわかり、審査を担当する一人として、そこに関わらせていただいていることを嬉しく、光栄に思います。活動の多くが今でも活発な活動として継続され、発展し、地域社会で人々のつながりを育んでいることに深い感動を覚えます。これからも「協働」の文化が広がり、本助成制度がよりよい地域社会づくりの一助となれることを心から願いつつ、私自身も皆様の実践に学ばせていただきたいと思っています。



2022年度 CO・OP共済 地域ささえあい助成 審査委員会
委員長 齊藤 弥生（大阪大学大学院人間科学研究科 教授、放送大学 客員教授）

注1 「協働はじめる助成」では生協と地域団体とが協働をはじめることを、「協働ひろめる助成」ではその協働関係を生協が主体性を発揮しながら広げること・深めることを後押ししていきます。そして、「協働たかめる助成」では、活動・協働の運営を安定させて協働関係を持続的なものとし、この協働関係をベースとして地域の多様な課題に向き合うことをサポートしていきます。

「CO・OP 共済 地域ささえあい助成」10周年を迎えて

◆この「活動報告集」は助成金活用団体の活動を紹介するために、2012年度より毎年発行してきました。2022年3月をもって「地域ささえあい助成」は10周年の節目を迎えました。これを記念して前号に引き続き本号においても特集記事を掲載しました。

今回は第5弾、第6弾とまとめについて、51～58ページに掲載しました。特集記事1/3～3/3は第5弾です。これは第4弾「エピソード作文応募企画」としてこれまで本助成を受けて取り組まれた活動に参加された皆様から応募いただいた作文を選考・審査して「入選作文」を掲載しました。入選者には賞状およびプレゼントの贈呈、CO・OP共済オフィシャルホームページにも掲載しています。第6弾はCO・OP共済ブランドキャラクター「コーすけ」も誕生10周年であることから、「2022年度助成金活用団体への記念特典」として、「コーすけ」のノベルティ進呈の報告を掲載しました。

「地域ささえあい助成」10周年記念企画

- 第1弾「誕生から10年間のあゆみ」～前号に掲載（特集記事①）
- 第2弾「歴代審査委員が振り返る10年間」～前号に掲載（特集記事②）
- 第3弾「歴代審査委員が振り返る10年間」10周年記念座談会～前号に掲載
- 第4弾「地域ささえあい助成」10年間のエピソード作文募集
- 第5弾「地域ささえあい助成」10年間のエピソード作文入選者・作文紹介～本号に掲載（特集記事1/3～3/3）
- 第6弾「2022年度助成金活用団体への記念特典」誕生10周年を迎える当会キャラクター「コーすけ」のノベルティ進呈～本号に掲載

第5弾～エピソード作文入選者・作文タイトルのご紹介～

2012年当時から毎年度、活動内容、地域、書いてくださった方々の立場も多岐に渡って、応募いただいた結果、13作文（下）が入選となりました。入選者の皆様へ賞状と副賞をお贈りしました。



掲載順 No.	お名前	作文タイトル	掲載ページ
1	上田 亮太（あげた りょうた）様	地域ささえあい事業10周年によせて	51
2	長島 晴美（ながしま はるみ）様	今はなき、大原さんち	51
3	渡辺 建寿（わたなべ けんじ）様	大震災山元支援から	52
4	広部 知森（ひろべ かずもり）様	手しごとコミュニティと居場所	52
5	野津 久美子（のつ くみこ）様	「人間らしくつながり支えあう！」このチャレンジに終わりなし！	53
6	大木 理之（おおき ただし）様	初動時からの温かい支援に感謝	53
7	相内 俊一（あいうち としかず）様	成長期の栄養としての「地域ささえあい助成」	54
8	美谷島 越子（みやじま えつこ）様	スタート時の助成金活用が現在の活動展開の基礎	54
9	林 幸子（はやし さちこ）様	福祉マップ作成を通じた初めての協働の取り組み	54
10	大高 好文（おおたか よしひみ）様	地域諸団体・住民と創り上げた移動店舗事業	55
11	五十嵐 恭子（いがらし きょうこ）様	あれから10年、助け合い活動の広がりと充実を実感	55
12	手崎 亮佑（てさき りょうすけ）様	地域ささえあい助成事業に参加して	56
13	前田 裕保（まえだ ひろやす）様	コロナ禍に実現した地元の高校生との地域活動	56

審査委員一覧（敬称略、◎審査委員長）

氏名	所属・役職
齊藤 弥生◎	大阪大学大学院人間科学研究科 教授/放送大学 客員教授
大野 覚	認定NPO法人 茨城NPOセンター・コモンズ 常務理事・事務局長/フードバンク茨城 理事長
山崎 由希子	公益財団法人 生協総合研究所 研究員
山里 小百合	生活協同組合コープおきなわ 副理事長/コープ共済連 理事
洞井 加奈子	京都生活協同組合 副理事長/コープ共済連 理事
二村 睦子	日本生活協同組合連合会 常務理事
前田 かおり	日本生活協同組合連合会 執行役員 管理本部 本部長
本木 時久※	日本生活協同組合連合会 執行役員 組織推進本部 本部長
渡邊 一巨※	日本コープ共済生活協同組合連合会 総合マネジメント本部 本部長

所属・役職は2022年2月15日の審査委員会時点での表記
※2022年7月14日着任

地域ささえあい助成10周年記念企画について、昨年度発行の2021年度活動報告集では審査委員長・審査委員の視点やデータを中心に10年間を振り返りました。今回の2022年度活動報告集では助成金を活用した団体の皆様の視点での振り返りを掲載しています。その方法は2022年度中に半年をかけて「エピソード作文」を募集し、そこから地域ささえあい助成の現場の姿をみようとしてきました。その結果、寄せられた作文からは地域のための真摯な活動や現場の想いがみえると同時に、10年間の様々な地域課題について改めて振り返る機会になったと感じています。本助成制度は2012年度からスタートしていますが、2011年の東日本大震災後の人々の心の問題、子どもの貧困問題、地域の過疎化の問題、高齢者の居場所づくりや健康づくり、様々な問題を抱えた人への包括的な支援などの多様な課題が存在し、その解決のための場づくり、仕組みづくり、世代間の交流などの取り組みが展開されたことが寄せられた作文から読み取ることができました。その活動や取り組まれた皆様の想いには深い感銘を覚えると同時に、尊敬の念に堪えません。ぜひ、本誌を手にとられた皆様にはじっくりとお読みいただきたい秀逸な作文ばかりです。改めて、10年間にわたるご縁に深く感謝すると同時に、これからの10年をまた皆様とともに創り上げていく気持ちを新たにしました。

日本コープ共済生活協同組合連合会
代表理事 和 田 寿 昭



はじめに	1
「CO・OP 共済 地域ささえあい助成」10周年を迎えて	2
2022年度「CO・OP 共済 地域ささえあい助成」助成先一覧	5

活動報告 協働はじめる助成

※各項目の1行目が活動の名称、2行目が第一団体（窓口団体）の名称です。

● mamas ワークぷらす 社会福祉法人うきは市社会福祉協議会	9
● スタディドライブ（文房具支援） 生活協同組合ユーコープ	10
● 地域で子どもを見守り育てる～持ち寄りサロン“ひとてま”～ 公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会	11
● 福島と福岡の絆の「かぼちゃ」を植えて、こども食堂を応援するプロジェクト エフコープ生活協同組合	12
● 生きる力を育むプレーパーク活動 いかるが子どもの遊び場づくりの会	13
● すべての子どもたちに本の喜びを 公益財団法人ふきのとう文庫	14
● ICTを活用した「地域での新たな見守り・買い物支援体制」研究開発事業 黒部市社会福祉協議会	15
● 和歌山県内のこども食堂利用者や、ひとり親世帯を支援する活動 和歌山県生活協同組合連合会	16
● ちいさなやさしさ市場 群馬中央医療生活協同組合	17
● 被災地域のコミュニティの再生・つながり作り事業 一般社団法人あまみら	18
● 心の居場所「アットリンクカフェ」の運営 特定非営利活動法人アットリンク奈良	19
● 子どもの学習支援と虐待に対する支援体制整備のための研修 特定非営利活動法人コミュニティ・ネットワーク・ウェーブ	20
助成を受けた活動がメディアに多数取り上げられました	21

活動報告 協働ひろめる助成

※各項目の1行目が活動の名称、2行目が第一団体（窓口団体）の名称です。

● あのね～食と居場所でつながる地域の子どもの安全ネット 一般社団法人あのね	23
● 困窮するシングルマザー・女性・こどもへの食糧支援をつなぎひろげる事業 一般社団法人シンママ大阪応援団	24
● ワーカーズコレクティブ講座の開催と運営 生活協同組合コープあいち	25

● ひとり親家庭の親と子の居場所づくりと学びの広場 シングルズ（香芝市母子寡婦福祉会）	26
● 『支え愛の店ながえ』を拠点とした、生協と米子市永江地区自治連合会協力による 地域支え合い活動 鳥取県生活協同組合	27
● あったかフードバンク大泉 東京保健生活協同組合	28
● 大人のトライやるウィーク参加してみよう！ボランティア！ 生活協同組合コープこうべ 第5地区本部	29
● いのちとくらしの実行委員会（映画祭&講演会） 生活協同組合コープ自然派兵庫	30
● 放課後学習支援 生活協同組合コープこうべ第5地区本部	31
● 福井県フードバンク連絡会の設立を目指す （福井県民生協、県内の食品提供事業者等をつなぐ連絡会の結成） 福井県民生協同組合	32
● 「大学生の食の応援共同事業」の発展 生活協同組合おかやまコープ	33
● 新しい協働ステーションにおける「えんがわマルシェ」づくり 生活協働組合コープぎふ 岐阜西支所	34
● Web アプリを活用した地域資源の見える化と活動団体支援強化による重層的支援体制の確立 生活協同組合コープこうべ 第2地区本部	35
● 大庄元気むら～コープさんとこ 生活協同組合コープこうべ 第1地区本部	36
● 飛騨市北部（宮川町、河合町）から各地に、地域サロンの広がりをつくる② 生活協同組合 コープぎふ 飛騨支所	37
● DV 被害者および母子家庭等貧困世帯の DV・虐待・貧困の連鎖を防ぐための活動 特定非営利活動法人 DV 対策センター	38
● SDGs を活かした地域コミュニティづくり 生活協同組合パルシステム千葉	39
● コロナ禍において生活に影響が生じている学生への食料品配布・情報提供、 および学生交流会の開催 大阪よどがわ市民生活協同組合	40
● 「健康づくり」活動の輪が広がり、「地域に役立つ共同農園づくり」にステップアップしたい 愛媛医療生活協同組合	41
協働はじめる助成・協働ひろめる助成 2022年度助成のまとめ	42
協働はじめる助成・協働ひろめる助成 募集のお知らせ	43
2022年度フレンドリーサポート実施報告	45
2022年度「CO・OP 地域ささえあい助成 団体交流会」開催報告	47
コーすけ10周年特集記事！	49
10周年記念企画 第5弾・第6弾・まとめ	51
地域ささえあい助成事務局からのお知らせ	59
協働たかめる助成 募集のお知らせ	61

2022年度「CO・OP 共済 地域ささえあい助成」 助成先一覧

協働はじめる助成

「協働はじめる助成」の助成を受けた活動の名称（白文字）と、協働してその活動に取り組む生協・団体の名称（黒文字）を一覧にて掲載します。数字は各活動報告の掲載ページです。

mamas ワークぱらす 9

社会福祉法人うきは市社会福祉協議会
エフコープ生活協同組合

ICTを活用した「地域での新たな見守り・ 買い物支援体制」研究開発事業 15

黒部市社会福祉協議会
とやま生活協同組合（旧・富山県生活協同組合）

スタディドライブ（文房具支援） 10

生活協同組合ユーコープ
生活協同組合ユーコープ くらしたすけあい活動
横浜市社会福祉協議会

和歌山県内の子ども食堂利用者や、 ひとり親世帯を支援する活動 16

和歌山県生活協同組合連合会
NPO 法人子ども食堂わかやま

地域で子どもを見守り育てる ～持ち寄りサロン“ひとてま”～ 11

公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会
生活協同組合コープさっぽろ

ちいさなやさしさ市場 17

群馬中央医療生活協同組合
NPO 法人はじめの一步
JOY クラブ

福島と福岡の絆の「かぼちゃ」を植えて、 子ども食堂を応援するプロジェクト 12

エフコープ生活協同組合
東峰村えんプロジェクトの会

被災地域のコミュニティの再生・ つながり作り事業 18

一般社団法人あまみら
生活協同組合コープおおいた

生きる力を育むプレーパーク活動 13

いかるが子どもの遊び場づくりの会
市民生活協同組合ならコープ

心の居場所「アットリンクカフェ」の 運営 19

特定非営利活動法人アットリンク奈良
市民生活協同組合ならコープ

すべての子どもたちに本の喜びを 14

公益財団法人ふきのとう文庫
生活協同組合コープさっぽろ

子どもの学習支援と虐待に対する 支援体制整備のための研修 20

特定非営利活動法人コミュニティ・ネットワーク・ウェーブ
東都生活協同組合

12件 5,366,602円

協働ひろめる助成

「協働ひろめる助成」の助成を受けた活動の名称（白文字）と、協働してその活動に取り組む生協・団体の名称（黒文字）を一覧にて掲載します。数字は各活動報告の掲載ページです。

あのね～食と居場所でつながる地域の子どもたちのセーフティネット 23

一般社団法人あのね
生活協同組合おおさかパルコープ

困窮するシングルマザー・女性・子どもへの食糧支援をつなぎひろげる事業 24

一般社団法人シンママ大阪応援団
生活協同組合おおさかパルコープ

ワーカーズコレクティブ講座の開催と運営 25

生活協同組合コープあいち
NPO あいちあんきネット

ひとり親家庭の親と子の居場所づくりと学びの広場 26

シングルず（香芝市母子寡婦福祉会）
市民生活協同組合ならコープ
香芝市社会福祉協議会

『支え愛の店ながえ』を拠点とした、生協と米子市永江地区自治連合会協力による地域支え合い活動 27

鳥取県生活協同組合
永江地区自治連合会

あったかフードバンク大泉 28

東京保健生活協同組合
あったかフードバンク大泉

大人のトライやるウィーク参加してみよう！ボランティア！ 29

生活協同組合コープこうべ 第5地区本部
しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西・神戸ウエスト

いのちとくらしの実行委員会（映画祭&講演会） 30

生活協同組合コープ自然派兵庫
特定非営利活動法人フードバンク関西
生活協同組合コープこうべ第5地区本部
地域でつくるこどもの居場所・はぐくみ
こわすな憲法！いのちとくらし！市民デモ HYOGO

放課後学習支援 31

生活協同組合コープこうべ 第5地区本部
がんばるもん実行委員会

福井県フードバンク連絡会の設立を目指す（福井県民生協、県内の食品提供事業者等をつなぐ連絡会の結成） 32

福井県民生生活協同組合
こども食堂ネットワークふくい

「大学生の食の応援共同事業」の発展 33

生活協同組合おかやまコープ
岡山大学生生活協同組合
おかやまコープ虹の会

新しい協働ステーションにおける「えながわマルシェ」づくり 34

生活協働組合コープぎふ 岐阜西支所
社会福祉法人いびき福祉会

Web アプリを活用した地域資源の見える化と活動団体支援強化による重層的支援体制の確立 35

生活協同組合コープこうべ 第2地区本部
特定非営利活動法人あしや NPO センター
芦屋市
芦屋市社会福祉協議会

協働ひろめる助成

大庄元気むら～コープさんとこ 36

生活協同組合コープこうべ 第1地区本部
大庄元気むら

飛騨市北部（宮川町、河合町）から 各地に、地域サロンの広がりをつくる② 37

生活協同組合 コープぎふ
よらまいかびいず
びいちくサロン会

DV 被害者および母子家庭等貧困世帯の DV・虐待・貧困の連鎖を防ぐための活動 38

特定非営利活動法人 DV 対策センター
東都生活協同組合

SDGs を活かした地域コミュニティづくり 39

生活協同組合パルシステム千葉
フードバンクちば
ワーカーズコープちば
淑徳大学コミュニティ政策学部 消費者法研究室

コロナ禍において生活に影響が 生じている学生への食料品配布・ 情報提供、および学生交流会の開催 40

大阪よどがわ市民生活協同組合
吹田市社会福祉協議会
吹田市社会福祉協議会施設連絡会

「健康づくり」活動の輪が広がり、 「地域に役立つ共同農園づくり」に ステップアップしたい 41

愛媛医療生活協同組合
愛媛医療生協 共同農園レインボーファーム

19件 13,747,391円

総合計 31件 19,113,993円

「活動報告」ページの凡例

mamas ワークぷらす

活動名

社会福祉法人うきは市社会福祉協議会 / エフコープ生活協同組合

協働団体名

https://www.ukiha-shakyo.or.jp/paper/k_fukushi/212/p009.html

関連ウェブページ

活動のきっかけ

ひきこもり者や生活困窮者の就労準備支援をおこなっているが、育児中の母親から「仕事をしたいけど、まだ保育所には預けられない」「コロナで育児サークルも中止で、図書館なども使えず、家の中ばかりで息が詰まる」といった声を聞き、他の地域にも問い合わせると、ひきこもり者の就労準備に参加させてもらえないかと、育児中の方から聞かれたこともあるとのことで、育児中のママたちが居場所や活躍の場を求めていると感じた。

活動内容概要

子育て中のママ達に集まっていただくため、SNS などでのお知らせをおこない、健康美容体操教室（託児あり）を実施して、集うきっかけと仲間づくりをおこなった。仕事づくりについて「ばあちゃん食堂」との調整をおこなっていたが、諸事情により実現できず、急遽他の仕事づくりの企画を何度か発案するも、準備時間が足りずに実現できなかった。ママ達には、子どもと一緒にでも気軽に参加できる機会と場所を提供することができた。

本文



活動報告

協働はじめる助成

助成件数 12件

助成金総額 5,366,602円

協働はじめる助成では、
生協と地域の団体がはじめて協働して取り組む活動を助成しています。

活動のきっかけ

ひきこもり者や生活困窮者の就労準備支援をおこなっているが、育児中の母親から「仕事をしたいけど、まだ保育所には預けられない」「コロナで育児サークルも中止で、図書館なども使えず、家の中ばかりで息が詰まる」といった声を聞き、他の地域にも問い合わせると、ひきこもり者の就労準備に参加させてもらえないかと、育児中の方から聞かれたこともあるとのこと、育児中のママたちが居場所や活躍の場を求めていると感じた。



活動内容概要

子育て中のママ達に集まっていただくため、SNS などでの告知をおこない、健康美容体操教室（託児あり）を実施して、集うきっかけと仲間づくりをおこなった。仕事づくりについて「ばあちゃん食堂」との調整をおこなっていたが、諸事情により実現できず、急遽他の仕事づくりの企画を何度か発案するも、準備時間が足りずに実現できなかった。ママ達には、子どもと一緒にでも気軽に参加できる機会と場所を提供することができた。



他団体と協働することで発見したこと

子育てでは分野で初めての、社協とエフコープの協働であったが、子育て世帯は高齢者世帯に比べて少なく、市内各所に分散しており、高齢者支援のように、地区ごとにおこなっても相当数参加がある事業と違い、全市的に呼びかけても、顔見知りがないなどで、参加すること自体なかなかハードルが高いものであるようであった。社協、生協それぞれに、関わりの得意分野があり、それぞれの持ち味が相乗効果によって活かされそうな可能性を感じた。

成果として評価できる点

うきは市社会福祉協議会としては、これまで子育てママ達との接点が無く、子育て支援の分野で当事者の意見を聞いたり、一緒に活動することができなかったが、今回の助成事業により、つながり作りのきっかけができたことで、今後は今回の参加者を中心に、新たな取り組みの情報提供や、直接的な声掛けが容易になった。また、提供予定の仕事（作業）をいくつか企画したことで、どんなものが取り掛かりやすいか、生産性があるかなど各方面から意見いただき、今後実現できそうな仕事を改めて考えることができ、次年度以降の継続的な活動につなげることができると考えている。さらに、エフコープとしても離乳食教室の案内など、生協活動を PR する機会ともなった。

生協が担った具体的な役割

10月実施回において、生協組合員向け広報誌への開催案内と子育て支援商品の情報紹介をおこなった。プラスワークの内容として、生協の事業所内で作業しているチラシ配布セットを検討したが、実施には至らなかった。

将来イメージ

健康・美容体操教室については、好評につき独自予算にて継続していくが、仕事復帰の準備の場としての機能を作るために、エフコープとの協働を継続しながら、地元の事業所等にも働きかけを広げ、提供できる仕事を確保していき、交流と仕事（就労準備）をサポートできる機会を確立したい。また、ここでつながった方々より、子育て中の悩みや困りごとを聞き取ることで、課題を解決する取り組みを社会福祉協議会とエフコープにて開発するとともに、当事者が主体的に取り組みたいという、仕事につながるようなアイデア（ママカフェ、子育て用品リサイクル、農産品等の独自ブランド自主製品づくりなど）にも寄り添えるようにサポートしたい。

スタディドライブ（文房具支援）

生活協同組合ユーコープ / 生活協同組合ユーコープ くらしたすけあい活動 /
社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会

<https://www.ucoop.or.jp/hiroba/>

活動のきっかけ

地域に住む皆さんの暮らしを良くするための活動をおこなっている中で、コロナ禍はもとより、家庭の事情で支援が必要な子どもたちが多いことに気づきました。2021年に取り組んだ「子どもの貧困・教育のための寄付活動」にたくさんの寄付が集まった経験から、子どものための支援活動は社会的にも関心が高いと確信しました。どこの家庭にも余っている文具の寄付が「子どもの学習支援につながる活動」になればよいと考えました。



活動内容概要

ユーコープのエリア事務所がある事業所（店舗、宅配センター）19拠点で組合員からご家庭で不要となっている文具を集め、仕分けし、横浜市社会福祉協議会より18の区社協を通じて子どものための学習支援をおこなっている41の団体に文具をお届けしました。ユーコープは文具収集の広報や収集した文具の運搬、くらしたすけあい活動は文具の仕分け作業、社会福祉協議会は関連事業所での広報と学習支援先の要望を聞き取り文具の配布を担いました。



他団体と協働することで発見したこと

横浜市社会福祉協議会と協働することで、関連事業所での広報が可能になり、直接学習支援先の要望を聞くことができました。ユーコープだけの取り組みでは、子どもたちひとりひとりに寄り添うような細やかな活動は難しかったと思います。また、くらしたすけあい活動は、大量に集まった文具を仕分けするボランティア作業を担当し、それぞれが役割分担することで効率よく活動することができました。

成果として評価できる点

「文具の寄付活動」は初めての取り組みでしたが、組合員の関心は高く、鉛筆1万本以上、消しゴム約1,200個、ノート1,200冊以上、他にもたくさんの文具が集まりました。ユーコープのエリア事務所がある事業所（店舗・宅配センター）を回収場所としたことで、ポスターや回収BOXの設置、集まった文具の回収作業等を効率的におこなうことができました。また、横浜市社会福祉協議会と連携することで直接学習支援先の要望を聞くことができ、希望に沿った形で文具の配布ができました。地域ネットワークとの連携が強まり、今後の活動の展望を得ることができました。

生協が担った具体的な役割

横浜市との定期会議の中で社会福祉協議会から学習支援先で文具が足りず困っていること聞き、「スタディドライブ」の実施を決定。ユーコープはイベント情報紙からm i oで「スタディドライブ」の取り組みを広報し、エリア事務所がある事業所（店舗・宅配センター）にて、組合員、職員、パート職員からご家庭で不要となっている文具を集めました。集まった文具を横浜市社協に届け、くらしたすけあい活動と仕分け作業も担いました。

将来イメージ

今年度は横浜市内の子どもたちを対象としましたが、次年度は神奈川県内全域で「スタディドライブ」の取り組みができるようにしたいと思います。具体的には、神奈川県社会福祉協議会、川崎市社会福祉協議会、相模原市社会福祉協議会を通じて、神奈川県内にあるユーコープの希望店舗で「スタディドライブ」が実施できるようにすすめています。今回の支援活動を通して子どもたちからもたくさんの声を聞くことができました。将来は、地域に住んでいる支援が必要な子どもたちに必要な文具類が手軽に届く仕組みを作ればと思います。

地域で子どもを見守り育てる ～持ち寄りサロン“ひとてま”～

公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会 / 生活協同組合コープさっぽろ

<https://twitter.com/itoconchi>

活動のきっかけ

当団体が2020年6月に開設した「子ども・若者の居場所いとこんち」では、困難を抱える子ども・若者が集っている。近隣に住むシニア層から一軒家の提供を持ち掛けられ、シニア層の生きがいづくり活動と、「いとこんち」に集う子どもとの世代交流を実現することの意向を受けた。当団体は青少年支援のノウハウはあるが、シニア層との関わりは乏しいため、互いのノウハウを活かすためにコープさっぽろに協働を依頼した。



活動内容概要

一軒家を活用した地域サロン「ひとてま」を開設する。豊か（文化的・経済的）なシニア層と、支援を要する子ども・若者がサロンを介して出会い「地域の子どもの地域で育てる（ソーシャルペダゴジー）」を目指す。サロン「ひとてま」は地域の象徴として、世代を超えた交流を生みながら、地域の主役を若い世代に継承するための拠点となる。



他団体と協働することで発見したこと

これまでの子ども・若者支援の実績だけでは持ち得なかった地域との関係づくりに関するノウハウが蓄積された。地元根拠した活動をすすめていくうえでは、団体単位ではなく、地域の住民個人の理解・協力を得てすすめることが重要であるという気づきを得た。

成果として評価できる点

当団体が単独でサロン「ひとてま」を運営していた場合、全てのコンテンツを自前で企画運営するという発想しかなかったが、コープさっぽろと協働したことで、地域に開かれたサロン運営という考え方に移行したことが成果として評価できる。

地域のさまざまなアクターが、サロンを会場として使いながら、地域活動を展開した事例として、コープさっぽろ・よみきかせ隊の絵本読み聞かせのほかにも①地域住民が主催することも食堂を毎月一回開催、②商店街の方が手作り料理教室を親子向けに実施、などがあった。こういった事業の成果として、単に種類が増えただけではなく、地域の共有財産として開かれたサロンづくりの一助となった。

生協が担った具体的な役割

意見交換を通じて互いの活動の協働を検討する機会を得て、特に子育て支援の分野における協働の可能性がみえた。サロンのイベント「ひとてまつり」において、コープさっぽろ・よみきかせ隊に協力いただき、近隣の24時間保育園の子どもたちに読み聞かせの機会を提供いただいた。

将来イメージ

サロン運営の主体を当団体ではなく、地域に根差した小規模法人もしくは地元の住民グループに引き継ぐ。毎日のように住民がサロンを訪れるほか、定期的に行事が開催されている。行事の主催者は、コープさっぽろのほか、地域の有志でボランティア的に運営される。当団体はサポート役として関わりを継続し、とりわけ若い世代の青少年がサロン利用を通じて地域の住民と交流を深める拠点となるよう、サポートする。

地域の子どもの地域で大人みんなで育てる、そのシンボルとしてサロンが機能し、まちづくりの拠点となる。

福島と福岡の絆の「かぼちゃ」を植えて、 こども食堂を応援するプロジェクト

エフコープ生活協同組合 / 東峰村えんプロジェクトの会

<https://www.facebook.com/fcoop.or.jp>

活動のきっかけ

当生協では、東日本大震災の直後から、特に福島県内の生協やJAとともに協同組合間協同による災害復興応援活動に取り組んでおりました。その後発生した、「平成29年7月九州北部豪雨」災害にあたっては、逆に同県内から東峰村に駆けつけていただき、協同して支援物資・義援金の提供や仮設住宅での食事会などに取り組みました。その一環として開催した被災された方土士の交流企画で今回の活動の案が生まれました。



活動内容概要

東日本大震災・福島第一原発事故により、一時は全村避難となるほどの甚大な被害を受けた福島県飯舘村において、災害・事故を挟んだ30年超の歳月をかけて開発された「かぼちゃ（いいたて雪っ娘）」を、「平成29年7月九州北部豪雨」災害で甚大な被害を受けた東峰村で栽培しました。また、収穫した「かぼちゃ」そのものや当生協で供給した際の収益は、県内で開催される「こども食堂」などに提供し、活用していただきました。



他団体と協働することで発見したこと

今回の協働による活動・交流を通じて、少子高齢化と人口減少・中山間地域での遊休農地の増加などとそれらによって生ずる地域課題について、机上だけではない知識・経験を得ることができました。また、単なる災害時だけの復興応援活動に留まらず、微力ながら、生協の購買事業も活かした地域活性化のモデルのひとつとなりました。

成果として評価できる点

協働した「東峰村えんプロジェクトの会」は、「平成29年8月九州北部豪雨」災害により東峰村内で供与された仮設住宅の元入居者を中心に結成された団体で、同住宅の供与期間終了後も、ご縁が途絶えることがなく今回の活動をはじめさまざまな取り組みをともにできたこと。また、東峰村は、当生協組合員の約7割が居住される北九州・福岡市および量都市圏中心部から車で60～90分程度でアクセスできる位置関係でもあり、多くの組合員が休日に家族で参加できる場を提供できたこと。ほか、コープ九州事業連合とも連携して、収穫した「かぼちゃ（いいたて雪っ娘）」を原料とした商品開発・供給の実現可能性が見いだせたこと。

生協が担った具体的な役割

飯舘村側（いいたて雪っ娘プロジェクト協議会）と東峰村えんプロジェクトの会や、同会と「こども食堂」などをつなぐ事務や交流企画の開催を中心となりおこないました。また、活動にあたり、組合員などに参加を呼びかけるとともに、活動の準備・当日運営の一端を担いました。あわせて、それらについて、福島と福岡のふたつの災害の風化の抑制や応援意識の高揚のため、報道機関への発信を積極的におこないました。

将来イメージ

ひきつづき、飯舘村側（いいたて雪っ娘プロジェクト協議会）との交流を通じて災害復興の励みとするとともに、被災地域の活性化の先進事例を学びたいと考えています。また、福岡県内で開催される「こども食堂」に参加される子どもたちを東峰村に招き、食育・環境問題・防減災などについての学びの場を提供していきたいと思っています。一方で、将来にわたる持続性・自立性の道筋を立てるためにも、収穫した「かぼちゃ」および加工品の開発・供給について、当生協が中心になっておこなう必要があると考えます。また、そのことは、生協商品の利用を通じた「活動への参加」という視点でみた場合、多くの組合員の参加が期待できるものと考えます。

生きる力を育むプレーパーク活動

いかるが子どもの遊び場づくりの会 / 市民生活協同組合ならコープ

<https://ameblo.jp/ikaruga-asobiba/>

活動のきっかけ

2015年より、奈良県斑鳩町でこども食堂を運営していたが、子どもは食べるだけでなく、遊ぶことを求めていることを実感。しかしながら、公園ではボール遊びや草花採取などが禁止され、火を使えないので花火もできず、自由に遊ぶ場がありません。子どもたちは遊びや様々な体験をすることで成長するものだと、子ども食堂を運営していたメンバーを中心に2017年からプレーパーク活動を始めた。

活動内容概要

ボーイスカウトが活動場所に行っている空き地を借り、自由に遊ぶことができる場を提供している。運営者側がカリキュラムを用意するのではなく、子どもたちが自由に考えて遊ぶことを大切にしている。公共施設ではないため、草花や昆虫を採取したり、ノコギリで竹を切って工作をしたり、基地づくりをすることができる。夏には花火、秋には焚火で焼き芋をしたり、家庭ではできない体験の場を提供している。



他団体と協働することで発見したこと

子どもの未来アクションの活動を知り、どんな環境にあっても、子どもたちが希望がもてる社会をつくることは大人の責任であり、子どもの貧困は、社会全体の問題として捉えるべきであることを学んだ。子どもの問題を解決するために、取り組んでいる方々がたくさんおられ、ならコープとしても取り組んでおられることを知った。

成果として評価できる点

回を重ねるごとに、子どもたちの成長に目をみはる思いです。最近の子どもたちは、ゲームなど与えられたものでしか遊べないと思われがちですが、プレーパークでは、自分で竹を切って基地を作ったり、竹で遊び道具を作ったり、自分で考えて、手足を動かして遊んでいます。自分の友達だけでなく、プレーパークで初めて出会った人たちと一緒に遊んで、友達になっています。年長の子どもたちが年下の子どもたちを誘導したり、危ないことは注意をしたり、子どもたち同士でみんなが楽しく遊ぶためにはどうしたらいいのか、考えられるようになってきました。

生協が担った具体的な役割

ならコープの媒体において広報活動に協力していただくと同時に、ならコープの理事さんが参加して下さり、子どもたちの学びの機会を作っていただいた。キッチンカーを出していただき、子どもたちにキッチンカーの仕組みや、車の中で調理できることを知ってもらった。また、プレーパークの参加者の保護者らに子どもの未来アクションや生活協同組合が取り組む子育て事業について紹介していただいた。

将来イメージ

現在は、斑鳩町内での活動だが、将来的には他市町を含む広域で活動し、いつでも子どもたちが遊びに来られる場所を作っていきたい。遊び場の条件としては、草花や昆虫、水生生物を採取できること、竹や薪など遊びに必要なものを調達できること、子どもたちが自由に遊ぶことができることに加えて、水とトイレが必要。子どもたちの遊びをサポートするプレーリーダーを養成し、遊びを通して様々なことを学ぶことができる場づくりをめざしていきたい。

すべての子どもたちに本の喜びを

公益財団法人ふきのとう文庫 / 生活協同組合コープさっぽろ

<http://fukinotou.org>

活動のきっかけ

ふきのとう文庫では、ふきのとう子ども図書館が市内中央区にあるが、札幌全区から訪れるには遠いと感じる人も多い。絵本の図書館として特化したものは札幌市にも白石区にあるが、他にはない。そこでどの地域でも歩いて行ける場所に親子のふれあえる図書コーナーがあれば子育て支援としても役に立つと考えられ、今回のコープさっぽろとの協働事業を計画した。



活動内容概要

コープさっぽろには親子で遊びに来られる「トドックステーション」が市内に多数あり、ゆっくり絵本を読んだり、木のおもちゃであそんだりする場所である。ここにふきのとう文庫の絵本や布の本、拡大写本を持ち込んで、より多くの親子に楽しんでもらうとともに、障がい児のための本などについても知ってもらう。事業の概要としては、絵本・布の本・布の遊具・拡大写本の閲覧や、絵本の読み聞かせ、布の本・布の遊具・拡大写本の展示など。



他団体と協働することで発見したこと

日頃、絵本図書館に馴染みのない人たちが多く立ち寄ってくれて、新たにふきのとう図書館の存在を知り、その後、図書館を利用するきっかけとなった。

成果として評価できる点

ふきのとう文庫単独では集められない多くの人たちが「トドック・ふきのとう文庫 えほんのひろば」に来てくれた。これにより、ふきのとう子ども図書館を周知してもらい、札幌全区から注目されるようになった。また、コープさっぽろの読みかせ養成講座の受講者が、ふきのとう図書館でその実践をしたという相互効果もあった。

生協が担った具体的な役割

コープさっぽろの店舗に併設する「トドックステーション」を提供してもらうとともに、広報もしてもらった。また、スタッフとして活動してもらった。

将来イメージ

190万都市、札幌としてはあまりにも子どもたちが本に接する機会、場所が少なく行政だけでは手が回っていない分野であり、コープさっぽろと連携協定を結びながら、お互いのノウハウを交換、協働しながら子育ての支援になることを考えて活動していきたい。

ICT を活用した「地域での新たな見守り・買い物支援体制」 研究開発事業

黒部市社会福祉協議会 / とやま生活協同組合 (旧・富山県生活協同組合)

https://www.l1m-net.info/use/detail/interview_kurobe/

活動のきっかけ

地域住民が社会から孤立することを防止し、異変を早期に発見して誰もが安心して生活できる地域づくりを目指すため、2021年度に黒部市社協、富山県生協、CO・OPとやまで包括連携協定を締結しました。その中で、困りごとを抱えた地域住民に対する相談支援を、ICTを用いた見守り支援と買い物支援を1つのプラットフォームに集約し、さらなる「安心・安全・便利」の向上を目指していきたいと考え、取り組むこととなりました。



活動内容概要

独居高齢者等の要支援者が ITC 機器に「元気だよカード」をかざしてボタンを押すことによりタブレットへ通知が届き、安否確認できる仕組み等を整備し、地域の互助機能をはかりながら相談支援にもつなげていく取り組みです。さらに音声案内機能により防犯情報や介護予防・脳トレなど幅広い分野で情報を伝達し、ICTによる介護予防の有効性を検証していきます。



他団体と協働することで発見したこと

複雑多様化する地域課題を解決していくためには、それぞれの強みや利権を明確に連携協働していくことが必要不可欠であり、とやま生協と黒部市社協が情報共有する場を定期的に設けたことでお互いの抱える課題や強みを確認し合うことができました。また、生協会員で生活課題を抱えた高齢者に対してくろベネット事業に登録したり、宅配事業を通じて気づきをくろベネット事業につなぐなどの連携協働もできました。

成果として評価できる点

今回の ICT 機器設置者の「元気だよカード」やボタン操作の利用率は約 92% でほぼ毎日利用されていました。最初は抵抗感を示す方もおられましたが、簡単に使用できることで高齢者の ICT への抵抗感軽減にもつなげていくことができました。また、タブレット上で安否確認していくことで設置者の生活状況も把握することができ、異変時には関係者と連携しながら支援しました。「御用聞きカード」の利用から体調不良を訴える相談等があり、とやま生協や黒部市社協で早期対応したり、関係機関につなぐことで ICT 機器から生活支援に結びついたケースもありました。その他有償ボランティア「にこりーな」の新規登録にも 1 件つながりました。

生協が担った具体的な役割

くろベネット事業に協力し、買い物配達時での見守り支援の連携や高齢者の生活支援を ICT 機器を活用してサポートしていくことです。ICT 機器に「御用聞きカード」が置かれると生協に連絡が入り相談を聞きます。生活支援に関する相談は、くろベネット事業と連携することで生協活動が地域社会や自治組織等での支援につながったり、生協組合員による有償ボランティア団体が地域と連携してサポートしていきます。

将来イメージ

今は後期高齢者を中心としたくろベネット事業の登録者や生協会員に ICT 機器を設置しているが、将来的には障がいを抱える家族をはじめ、8050 問題を抱えた家庭や引きこもり世帯など生活に不安を抱える世帯で ICT 機器の設置が有効な方も対象としてすすめていきたいです。また、県内全域の市町村社協と生協でお互いの強みを活かしながら連携し、黒部市での ICT 利活用の取り組みが一つのモデルとなり将来的には富山県全域で展開していければよいと思っています。生協と社協の連携によってくろベネット事業やケアネット事業が進化していくことを望んでいます。

和歌山県内の子ども食堂利用者や、 ひとり親世帯を支援する活動

和歌山県生活協同組合連合会 / NPO 法人子ども食堂わかやま

<https://www.facebook.com/onominato.kodomo>

活動のきっかけ

2020年和歌山県生協連が主催し、環境を守る取り組み・食品ロス削減の取り組みとして、初めてフードドライブに取り組みました。この時集まった商品は、NPO法人子ども食堂わかやまを通じて、県内の子ども食堂を利用されている方やひとり親世帯に配布したのが活動のきっかけです。その後、和歌山県生協連の会員の災害物資のローリングストック商品なども定期的にお届けし、支援品として活用いただいています。



活動内容概要

2022年度の活動はコロナ禍ということもあり、計画していた子ども食堂の活動は2回開催と中々実施できませんでした。少人数で開催した他の子ども食堂に、組合員のボランティアと共に手伝いに行くなど、地域との繋がりに努めました。今回の助成金を活用した購入した商品や県連からお届けした商品、また地域の方から寄付いただいた商品などを活用しフードパントリーを毎月開催し、支援につなげることができました。フードパントリーを利用しに来た方と直接話をし、20名の方を行政の生活支援にマッチングできました。



他団体と協働することで発見したこと

今までの活動は、フードドライブで集まった商品を子ども食堂わかやまに届けるといった支援でしたが、今回地域ささえあい助成を活用させていただくことにより、2カ月に一回のミーティングを開催し、和歌山県内の子ども食堂の状況や和歌山県の施策の現状などお互いに情報交流できたことが大きかったと思います。今後お互いの活動を尊重しながら、子ども食堂利用者や、ひとり親世帯の支援を実施できればと考えています。

成果として評価できる点

地域ささえあい助成金活用させていただくことにより、今まで以上に、子ども食堂わかやまとの連携を強化できました。また、生協連の会員生協である和歌山中央医療生協が実施している「フードバンク&何でも相談」を案内することにより、多くの子ども食堂利用者や、ひとり親世帯の利用につながり、支援の輪も広がりました。

生協が担った具体的な役割

和歌山県生協連が担った役割として、地域ささえあい助成金を預りミーティングを通じて活動の支援をおこないました。具体的には、会計を担いました。また、子ども食堂の活動にボランティアとして参加しました。あわせて、会員生協が実施する活動を子ども食堂利用者や、ひとり親世帯に案内したり、子ども食堂に積極的にボランティアに行くなど、協働がすすみました。

将来イメージ

和歌山県生協連が中心となり、行政や他の団体の協力も得ながら、県内の子ども食堂利用者や、ひとり親等の生活困窮世帯に年間を通じて支援を行えればと考えます。そのためにも、和歌山県がすすめる施策を確認しながら、多くの団体が参加でき、生活困窮者を支援ができる組織ができればいいと思います。

ちいさなやさしさ市場

群馬中央医療生活協同組合 / NPO 法人はじめの一步 / JOY クラブ

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100064981585242>

活動のきっかけ

協同団体である JOY クラブのメンバーからフードロスを抑えるための野菜販売を持ち掛けられたことがちいさなやさしさ市場が始まるきっかけとなりました。市場を定期的で開催することにより常連のお客さんが増えたことはもちろん、出店団体どうしの横のつながりができたり、そこに参加することで自分の居場所や役割を見つけられた方がおり、始めて数か月で目に見える変化がありました。



活動内容概要

前橋協立病院敷地内駐車場にて、毎週水曜日午前中に「ちいさなやさしさ市場」を開催し、来場された方たちに買い物を楽しんでいただいているほか、引きこもりの若者がキッチンカーで群馬名物「焼きまんじゅう」を焼き、販売する活動もおこなっており、その経験が自信となり就職や進学につながっています。

また、今年度は障がい者支援団体も新たに活動に加わり、総菜販売をおこないながらつながりを広めています。



他団体と協働することで発見したこと

それぞれの団体が持つ技術や人脈に助けられ、「ちいさなやさしさ市場」から派生する活動が成功に向かったことを実感した一年間でした。

成果として評価できる点

キッチンカーで出店している団体に引きこもりの若者が一緒に参加し、商品の調理・販売をすることで実践的な経験をすることができ、そこから自信をつけることができました。

その結果、自分のやりたいことや将来の目標ができ、数名の方が進学や就職につながりました。

また、ちいさなやさしさ市場から派生し、昨年12月に生活困窮者の食糧支援を開催することができました。群馬県内の企業や組合員さんから多数の食料や日用品の提供をいただき、当日は約150名の来場者に必要な物資を提供することができました。

この取り組みは継続的に開催することが実行委員会で確認され、次回は今年7月と12月に予定し、既に準備がすすめられています。

生協が担った具体的な役割

- ① コロナ禍の影響で活動場所が減ってしまった他団体を受け入れることができたこと。
- ② 生協の敷地内にコミュニティスペースとしての場を提供できたこと。

将来イメージ

2026年に前橋協立病院が立て替え予定となっており、現在建設準備をすすめています。

その中で、新たな病院の敷地にだれもが集えるコミュニティスペースを設ける予定です。

中庭のようなイメージで、そこにはキッチンカーが乗り入れできるスペースも確保予定です。

新病院が竣工した際には「ちいさなやさしさ市場」はそのコミュニティスペースで開催し、今よりも多くの人や団体がそこに集い、いこいの場として更なる発展をしていくことをイメージし、この活動を継続していく予定です。

被災地域のコミュニティの再生・つながり作り事業

一般社団法人あまみら / 生活協同組合コープおおいた

<https://www.facebook.com/amamira0707>

活動のきっかけ

令和2年豪雨での被災後、復旧期から炊き出しの支援やボランティア作業をコープおおいたさんと協働で取り組んだ。その後も、コープおおいたさんとは協働を続け、復興イベントへの出店、支援物資の配布、さらに令和3年豪雨災害後のボランティア作業など、継続して復興の取り組みをおこなってきた。災害から一年が経ち、地域住民の交流の場を提供するべく、コープおおいたさんと協働するに至った。



活動内容概要

対象に、①地域の愛された味「つづみ食堂」の餃子作りイベントを開催（7月）、②餅つきのイベントを開催（12月）、③昭和歌謡曲のど自慢大会を開催（1月）。地域住民の交流の場と活躍の場の提供と、共同作業を通して、地域の絆の強化をはかった。また、コープおおいたさんのスタッフの方を中心に、ボランティアも呼びかけることで、外部との交流の機会を創出した。



他団体と協働することで発見したこと

コープおおいたさんと協働することで、新たな人との交流が生まれ、地域の人たちがいつもよりイキイキとしていた。災害から2年が経ち、被災した住民も災害の風化を寂しがっていたが、外部からのサポートを喜んでた。また、事業実施において少人数で実施していたことで、マンパワー不足があったが、今回協働していくことで、その課題が解消され、きめ細かいところまで運営をすることができた。

成果として評価できる点

【①餃子作りイベント】被災前から被災前から地域で親しまれていた餃子を復活させることで、被災住民の郷土愛を再確認することができ、餃子作りを通して、住民同士・住民と外部との交流をはかることができた。【②餅つきイベント】同日に、温泉街内でマルシェがおこなわれていたことで、地域住民のみならず、近隣から訪れた方々も参加し、餅つきを楽しみ、温泉街に活気が生まれた。【③のど自慢大会】歌うことが好きな住民さんがいることを知り、「秋の交流会」から企画を変更。普段のイベントではあまり見ない住民も参加してくれて、キッチンカーも呼んだことでまた違った層の住民が交流する場となった。

生協が担った具体的な役割

- ・ 事業実施 / 運営における企画への参画
- ・ イベント開催時の物資 / 資材の支援
- ・ イベント運営のサポート
- ・ イベント時にお菓子を配布するなど生協らしい支援
- ・ 天ヶ瀬温泉街も普段から宅配サービスでコープおおいたさんのトラックが訪問している地域なので、親しみがあり、安心感を届けてくれた。

将来イメージ

現在、平日は河川工事がおこなわれており、来年度以降には河川改修による立ち退きなどが、徐々に始まりだす。災害での傷とは違う、故郷を離れなければならないかもしれない、という新たな悩みが生まれ、住民同士でも立場がそれぞれ変わってくる。その際に、悩みを打ち明けられなかったり一人で悩んでしまうことのないように、交流するきっかけを作っていこうと考えている。また、工事が始まることで、景観の問題なども出てくるため、手で景観を整え、同時に交流をできるような企画を考え、実施したい。

心の居場所「アットリンクカフェ」の運営

特定非営利活動法人アットリンク奈良 / 市民生活協同組合ならコープ

<http://www.atlinknara.org>

活動のきっかけ

性暴力被害者の支援をおこなっている中で、被害による後遺症で PTSD を発症している方は少なくありません。様々な症状から人間関係を構築することが難しく、孤立している方が多く、孤立している状況が回復を遅らせる要因のひとつにもなっています。少人数で毎月参加できるイベントを企画し、回数を重ねるごとに参加者同士がゆるくつながることができれば、孤立を防ぐことができるのではないかと、というのが活動のきっかけです。



活動内容概要

心の居場所「アットリンクカフェ」は、性暴力被害者の孤立を防ぐことを目的とし、月に一回程度、当法人の相談拠点『At Link House』や参加者が多数の時はレンタルスペースにて、様々な分野に詳しい講師をお招きし、性暴力の被害に遭われた方をはじめ、共通の悩みや困りことを抱えた方や当法人の活動に賛同してくださる方々に癒しや学びの時間と場所を提供しました。

他団体と協働することで発見したこと

今回初めてならコープ様と協働させていただきましたが、ならコープ様は以前から女性に対する暴力をなくす運動（パープルリボン）にも取り組んでおられました。協働する中で性暴力に関する基本的なことを知るための勉強会を開催していただきました。参加された方の感想に「理解しているつもりだったが、自分の中の刷り込まれた偏見などがあることに気づいた」とあり、やはり今後は啓発活動も必要だと思いました。

成果として評価できる点

自助会のように被害の話をすることはありませんが、やはり被害に遭われた方は、初回、申込むこと自体とても勇気が必要で、緊張しながらほとんどお話しすることはなくその場に居ると感じる感じで参加されていました。しかし、数回参加されると他の方とも会話している様子が伺えました。それからは毎月、告知するのを待っておられた様子で「いつも楽しみにしています」とアンケートに書いてくださいました。それは、この助成事業「心の居場所」としての役割が果たせたということだと思います。

生協が担った具体的な役割

- ①性暴力に関する知識を深め、理解を広げる取り組みとして学習会を開催しました。
- ②組員対象の学習会及び、ならコープ理事を対象とした学習会を実施しました。
- ③その上で、私たちにできることを考え学習会を中心に動いた1年間でした。
- ④今後も地域への理解を広めるために活動をとともにすすめて参ります。

将来イメージ

今後も継続して月に一回程度、心の居場所「At Link café」を開催し、参加者がそこに行けば「自分の居場所がある」と、感じられるような時間と場所を提供します。そして性暴力の被害に遭われた方が、安心して人とつながるという経験を積むことで人間関係を再構築し、トラウマからの回復を妨げる孤立化を防ぎます。今年度は少人数制でおこないましたが、今後はもう少し参加人数を増やすことも検討したいと思います。

子どもの学習支援と虐待に対する 支援体制整備のための研修

特定非営利活動法人コミュニティ・ネットワーク・ウェーブ / 東都生活協同組合

<http://www.ngo-npo.org/wave/>

活動のきっかけ

東都生協の「未来につなぐ募金」の助成に応募したことがきっかけで、子ども食堂、多世代食堂への食材提供や、助成金情報の提供をいただいている。今回CO・OP共済の助成情報をいただき、ぜひ協働して問題に取り組みたいと考えた。



活動内容概要

- ① 子どもの学習支援：地域の子どもの対象に週1回おこなった。利用料は無料で、食事の提供が必要な子どもは食費を100円とした。大学生や地域のボランティアが支援者として協力してくれた。
- ② 虐待に対する支援整備のための研修：子どもの虐待の早期発見、支援の重要性を地域の人たちに広く理解していただくための研修を5回おこなった。講師は専門家に依頼した。各回の受講者数は15～25名だった。



他団体と協働することで発見したこと

東都生協が配布した「虐待に対する支援整備のための研修会」のチラシを見て参加して下さった組合員の方々は、虐待だけではなく、福祉や環境等に関する様々な問題に関心を持ち、課題解決のために貢献したいという思いをもっていらした。当団体が気付かなかった、地域における潜在的なニーズや人的資源の存在を発見することができた。

成果として評価できる点

協働したことにより、当団体のみではリーチできない地域福祉に関心を持つ人々とつながることができ、今後の活動や情報伝達手段の可能性が広がった。子どもの学習支援の場に来てくれた子どもは、「児童館や公園よりもここが良い」と言ってくれており、子どもが安心して過ごせる場所としての機能も果たすことができた。虐待に対する支援整備のための研修会では、専門家から現状と課題解決のための取り組みについて具体的にお話をいただいたことにより、受講者の方々から「状況をよく理解することができた」「今の自分にできることから1つずつ取り組めば良いことが分かった」という声が寄せられ、本課題に対する理解を深めることに寄与できた。

生協が担った具体的な役割

- ・ 食材提供（子どもの居場所で使用するおやつや夕食の食材提供）
- ・ 組合員へのチラシ配布（近隣地域の組合員へ商品供給時に虐待の研修会の参加募集チラシを配布）
- ・ ボランティア募集（学習支援や研修会その他ウェブの活動に関わってくれるボランティア募集のチラシ配布）
- ・ 人材派遣（研修会当日の受付や写真撮影）

将来イメージ

学習支援の場は、学習だけではなく、個々の子どもの特性に合わせた支援をおこない、子どもが未来に希望を持てるような場所にしていきたい。大人数がある場所では過ごしにくい子どもや、周囲から孤立しやすい子どもも安心してその子らしく過ごせる場所にしていきたい。また、虐待等の子どもの問題に関する問題は潜在化しやすいため、当団体は身近な相談窓口として支援のきっかけを作り、専門機関と連携したり専門支援につなげることで地域の問題解決に貢献していきたい。

助成を受けた活動がメディアに多数取り上げられました

多数の助成金活用団体から、2022年度に取り組んだ活動が新聞・テレビ等のメディアにとりあげられたとのご報告をいただきました。地域の団体と生協が協働して社会課題・地域課題に取り組むようすが、地域メディアや全国メディアを通じて広く発信されています。

メディアに取り上げられた活動の事例

(1) スタディドライブ（文房具支援）

協働団体	生活協同組合ユーコープ、生活協同組合ユーコープ くらしたすけあい活動、社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会
メディア	タウンニュース（地域情報誌）
概要	7月22日におこなわれた、学習支援団体へ文房具を手渡す贈呈式についての記事が、タウンニュースの2022年8月4日号に掲載されました（「学習支援団体に文房具を」）。この活動では、ユーコープの店舗でユーコープやくらしたすけあい活動が寄付を募り集まった鉛筆や消しゴム、ノート等を、横浜市社協が把握した学習支援団体へ配布しています。そのなかの1つである学習教室への贈呈の様子が報道されました。

(2) 福島と福岡の絆の「かぼちゃ」を植えて、こども食堂を応援するプロジェクト

協働団体	エフコープ生活協同組合、東峰村えんプロジェクト
メディア	毎日新聞、福島民報社、福島民友新聞社、FBS 福岡放送、KBC 九州朝日放送、東峰村村政だより他
概要	KBC 九州朝日放送の番組「シリタカ！」10月27日放映分では、活動の中で育てた「いいたて雪っ娘」を使用して、自治体等とも協働して、地元レストランでメニュー開発していただいたかぼちゃ丼が紹介されました（「真っ白いカボチャ！？ハロウィーン丼完成！」）。この活動では、自治体等とも協働しながら、震災・原発事故の被災地の飯館村で開発されたかぼちゃを、豪雨災害の被災地の東峰村の棚田で栽培し、フードバンクを通じて子ども食堂等へ提供しています。

(3) 飛騨市北部（宮川町、河合町）から各地に、地域サロンの広がりをつくる②

協働団体	生活協同組合コープぎふ、よらまいかびいず、ぴいちくサロン会
メディア	中日新聞、岐阜新聞
概要	子どもからお年寄りまでが集まって交流する「ばあちゃん食堂という名前のこども食堂」、お年寄りを中心に幅広い年代の住民が集まって交流する「ぴいちくサロン」等の地域サロンの活動や、買い物が困難な過疎地域に住む高齢者等への支援として、公共交通バスで食料品等も運ぶ「貨客混載」の買い物バスの実証実験等が、各紙で報道されています。



活動報告

協働ひろめる助成

助成先件数 19件

助成金総額 13,747,391円

協働ひろめる助成では、
生協と地域の団体との間にすでに協働の実績があり、
その協働をさらに広げて取り組む活動を助成しています。

あのね～食と居場所でつながる地域の子どもたちのセーフティネット

一般社団法人あのね / 生活協同組合おおさかパルコープ

<https://www.facebook.com/takadono.kodomo.anone>

活動のきっかけ

身近な地域のなかで、困窮や虐待など「しんどい思い」を抱えた子どもがいるかもしれないとの想いで、2016年に「高殿こども食堂あのね」を開始し、2018年からはニーズの高い子どもたちとの居場所活動「あのねくらぶ」も並行して開催。母子家庭の子どもたちが多く、保護者も含めた個別支援が深まるなかで、フードバンクや寄付で集まった食材などを無料でお配りしてきました。



活動内容概要

【高殿こども食堂 あのね】地域の子どもの保護者が気軽に集える、食事と遊びの場。

【あのねくらぶ】登録制の子どもの居場所活動。ひとり親家庭やヤングケアラーの子どもたちの食事会、学習支援、遠足などの活動。

【あるのん】母子家庭の支援。地域の母子家庭50世帯以上が登録。①食品配布：常温・冷蔵・冷凍の食品や文具等を無料配布。②個別支援：育児や生活の相談や、生活保護の申請、弁護士相談等の同行支援も実施。



他団体と協働することで発見したこと

フードロスの観点から入手できる食材が増えつつあることと、生活困窮の母子世帯が非常に多くあることが、お互いの活動からみえてきました。その2つをつなぎ、食材を受け渡すことで、フードロスと困窮者支援の成果を両立できるようにも見えますが、本当に喜ばれるものでなければ、渡すことで逆に当事者を傷つけてしまう可能性もあります。協働相手の「何のため」という意義を理解しあうことで、その解決の糸口が開けてきます。

成果として評価できる点

おおさかパルコープのフードバンク事業との連携によって、あのねでは、毎月たくさんの食材を配布できるようになっていきました。大阪市の災害備蓄品や、各種企業・団体からの大量提供にも対応しており、食品ロスを減らす観点からも一定の成果を果たすことができました。また、冷凍食品などの家庭で喜ばれる食品も多く、シングルマザーの皆さんからは、「食費が助かることもすごくありがたいですが、普段買えないものや食べたことがないものもあって、食品をいただけることが楽しみでもあり、心まで満たされます」との言葉をいただいています。

生協が担った具体的な役割

フードバンクで集荷した食材や、オムツや洗剤等の日用品を、あのねの拠点まで搬入して無償で提供。あのねは、子どもはすべて無料で利用できる活動のため、継続した活動のためには食品の寄付が不可欠であり、毎月安定して食品を供給する要の存在となっています。また、保冷箱や保冷剤の貸出や、あのねが生協で食材の大量購入をする時には注文の受付と搬入をおこなう、寄付の家具の運搬をおこなうなど、柔軟に活動を助けています。

将来イメージ

地元の子どもたちに「あのね」が浸透し、学校や家庭の困りごとを相談できる場所として活用されていることをイメージしています。具体的には、子どもの居場所活動の開催日が増えたり、学習支援にも力をいれた活動をできればと考えています。また、シングルマザー支援として安定した食料提供や個別支援を継続して実施していきます。さらに、他機関との連携が深まり、困難な状況下にある地域の子どもをキャッチして、スピーディーかつ適切なサポートを実行できるように成長していきたいと思っています。

困窮するシングルマザー・女性・子どもへの食糧支援をつなぎひろげる事業

一般社団法人シンママ大阪応援団 / 生活協同組合おおさかパルコープ

<http://shinmama-osaka.com>

活動のきっかけ

2016年11月、その当時支援していたのはまだ8世帯ほどだったが、あるシングルマザーから「月末になると預金残高が千円未満になりパスタと塩コショウで1週間くらいです」とのメールがあり米をはじめ食糧・日用品等送付事業を開始。その活動の中でおおさかパルコープや大阪よどがわ市民生協からの支援をいただいている。



活動内容概要

2020年2月には60世帯であった送付先が、コロナ禍以降「収入が減り三度の食事ができない」「コロナ感染し家に食べるものがない」「食べるものがなく生きていけない」などのSOSが殺到し、2023年3月現在200を超えるシングルマザー世帯への食糧・日用品等送付事業（スペシャルボックス事業）を実施している。



他団体と協働することで発見したこと

それぞれの団体がサポートする対象によりニーズが違っている。そうした各種ニーズに応じたサポート品を提供元からシンママ大阪応援団がうけ、さらに連携団体に提供することを日常的に担っている。またそうした活動でさらに連携が強まり、応援団も他団体からの提供品を数多くうけている。

成果として評価できる点

毎月第2火曜日に100世帯、第4日曜日に100世帯、さらにSOSが来た時には随時緊急にスペシャルボックスを発送している。申請も不要で審査もない。「何も言わず、何もきかずに送られてくる」スペシャルボックスに対して圧倒的な信頼感があり、次の相談などにつながるケースが多い。さらに、毎月ボックスが送られてくることで「私は忘れられていない」「私はひとりぼっちではない」と思えるとの声が多い。ボックスはただ食糧が送られてくるのではなく、心の安定にもつながっている。

生協が担った具体的な役割

おおさかパルコープは独自でフードバンクを立ち上げておられ（生協単体で立ち上げておられるのは全国でおおさかパルコープとみやぎ生協ときいています）、現在90か所の子ども食堂といくつかの支援団体（シンママ大阪応援団もその一つ）をサポートされています。毎月200世帯へコンスタントに食糧・日用品を送付するのは非常に大変ですが、おおさかパルコープのフードバンクから多大なご支援をいただいています。

将来イメージ

現在200世帯のサポートをしており、財政的、物質的、さらに人的にもマックスかと感じている。現在大阪応援団の他に熊本応援団、福岡応援団があり、九州地域のサポートをしていただいている。将来的には各地に応援団が増えていくことを展望して活動をしていきたい。

ワーカーズコレクティブ講座の開催と運営

生活協同組合コープあいち / NPO あいちあんきネット

<http://www.aichi-ankinet.jp/>

活動のきっかけ

高齢者の最終章の支援をおこなっているあいちあんきネットは、自分たちだけでなく地域みなさんと共同で助け合いをおこなっています。そのため事業を広めるにはそのような支援をする担い手が必要となり、ワーカーズコレクティブという形の組織を考えていました。コープあいちも元気な高齢の組合員も多く、その方たちの活動の方法を考え、担い手を増やすためにワーカーズコレクティブが作る学習の必要性を感じ両団体の考えが一致しました。



活動内容概要

ワーカーズコレクティブを作ることができるような内容で講座を持ちました。なぜワーカーズなのかから始まり、そのための必要な法律や社会ルール、経理などの実務を学び、最後には自分のイメージするワーカーズコレクティブを発表しあい、みんなで作り上げていくような講座を、外部講師を交えながら計12回実施しました。約10名の方の参加がありました。コロナの影響もあり、主にオンラインによる講座でおこないました。



他団体と協働することで発見したこと

それぞれの得意分野を活かして講座を開催でき、内容が充実しました。弁護士や税理士から押さえておかないといけない法律や税務を学ぶことができました。そのため、事業を始めるための基礎的なことを自分たちの知りえる中だけでなく、幅広く学ぶことができたと思えました。また、日常的にあまり接点がない弁護士や税理士の方と交流ができ、今後も様々なことを教えてもらえる話しやすい関係ができました。

成果として評価できる点

ワーカーズコレクティブを作るうえで、生協だけの思いだけでは見逃してしまう点があったと思います。今回講師も弁護士、税理士、実際にワーカーズをおこなっている人、研究者など様々な人からの講座を受けることができ、いろいろな視点から学ぶことができました。ワーカーズを作るうえで、多面的に知ることができたことがよかったです。特に経理の関係は頭の中が真っ白な段階でしたが、勉強していけば何とかできるのではとの思いができてきたと感じました。また、最初はワーカーズコレクティブを作ることに不安なことばかりの声が多かったのですが、講義が進むにつれて前向きに考えてくれる方が増えたと感じています。

生協が担った具体的な役割

宣伝を幅広くお知らせをする予定でしたが時間的に難しかったです。その中で共同購入や店舗でこの講座をお知らせすることができました。そのため講座に参加した人は生協の組合員からでした。また、実際生協の活動をおこなっている組合員の方は、ワーカーズコレクティブのような実践をおこなうことには前向きであるので、講座を受けることでワーカーズコレクティブの立ち上げを考えてくれると思います。

将来イメージ

今回、初めての取り組みでした。まとめをして2回目にはもっと幅広く呼びかけ、講座もワーカーズコレクティブの立ち上げ、持続に結びつくようにしていきたいです。また、今回受講した1期生の方には、継続的に交流ができるような場を持ち、ワーカーズコレクティブの立ち上げや組織の活性化ができるようにフォローをしていきたいです。この講座を続けることで、ワーカーズコレクティブに関心を持ち、多くのワーカーズコレクティブの団体が地域にできること、それによりこの地域の助け合いや支えあいが広がり、安心して住み続けられる地域になっていけばと思っています。その一部分を私たちが担えればと思います。

ひとり親家庭の親と子の居場所づくりと学びの広場

シングルズ（香芝市母子寡婦福祉会） ／ 市民生活協同組合ならコープ ／ 香芝市社会福祉協議会

活動のきっかけ

香芝市在住のひとり親世帯の親子を主な対象とし、経済的な理由や心身的な理由により、旅行などの体験や経験不足、子どもと過ごす時間不足を解消するため、日帰り旅行や工作体験などの交流会の開催。また、家庭環境による教育格差をなくし、こどもの未来の可能性を広げるため、学習支援を実施。同じ境遇の子ども同士が集まることで、子どもにとって自分の居場所になるなど、様々な心理的ストレスの軽減と孤独感の解消を目指している。



活動内容概要

ひとり親世帯の子どもたちが抱えるストレスの発散や、母子・父子の親子が同じ境遇で持つ悩みや心配ごとを相談し合い交流できる行事の開催と、毎週土曜日 14:00～16:30 に学校の授業の復習や宿題などのサポートをおこない、個々の状況に応じて学べるよう勉強会を実施した。異年齢の子どもが関わる中で、兄弟のような家庭的な雰囲気ができ、家以外でリラックスできる居場所となった。



他団体と協働することで発見したこと

ならコープとの協働では、子どもたちに学用品配布をし、学習意欲の向上がみられた。また、温かい支援により、コロナ禍での孤独感や学校休校による子どものストレス軽減にもつながり、こどもの心理的不安の解消に大きく関与した。更に、フードバンク奈良と社会福祉協議会との協働では、会員に食料品等を配り、長期にわたるコロナ禍の生活不安に悩まれる会員の支援や、様子を伺うことができた。

成果として評価できる点

収入や将来の不安などで家にこもりがちになるひとり親世帯の親子に、日帰り旅行事業を開催し、親子で楽しく過ごす時間不足の解消ができた。また、同じ境遇の会員同士で交流できる事業も開催することができ、孤立化の防止もはかることができた。学習支援においては、新型コロナの再拡大により中止になることもあったが、学習支援だけでなく、こどもたちの居場所づくりにもなった。ならコープの子どもたちの未来アクションによる学習用品配布など様々な活動をとおして親子に安心感を与えることができた。

生協が担った具体的な役割

近年は地縁、血縁の希薄化、孤立等により地域の課題も複雑化する中、制度の支援だけでなく一人一人に目を向けサポートする社会福祉協議会の役割は大きいと思われます。ならコープのフードドライブで「買いたくても買えない事情のある子どもに使ってほしい」と文房具を持ってこられる組合員の思いを形にできるのは、香芝市社会福祉協議会、母子寡婦福祉会とつながり、取り組みを応援させていただいているからこそだと思います。

将来イメージ

ひとり親の世帯の多くは、収入による生活の不安、世帯の孤立、こどもの貧困、気づきにくい親子のSOSなど、様々な問題を抱えています。本会は、そのようなひとり親世帯の悩みの相談や窓口となり、悩みを持つ会員をサポートできる環境を更に整えていきたいと思っています。そのためには、地域のつながりだけでなく他団体とのつながりや身近な支援者を増やし、本会の交流事業の開催と、こどもの貧困格差による学力低下を防ぐための学習支援を継続し、親子の生きがいと居場所づくりに引き続き取り組んでいきます。

『支え愛の店ながえ』を拠点とした、生協と米子市永江地区自治連合会協力による地域支え合い活動

鳥取県生活協同組合 / 永江地区自治連合会

<https://www.facebook.com/sasaeainomisenagae/>

活動のきっかけ

永江地区のココステーション（当組合員商品受け渡し施設）の老朽化と手狭なこと、高齢化が進んでいる居住者へのお役立ちとして、同店内でのミニココステーションを2019年8月に開設しました。開設に伴い、「生協サロン」を定期的に開催し、地域住民と交流をおこなう中で、スーパーマーケットの撤退や地域の高齢化と若年層の流出などによる買い物および生活困難者が増えている実態をお聞きし、課題解決に向け永江地区自治連合会との協働に至りました。



活動内容概要

「支え愛の店ながえ」を住民同士のささえあい拠点とし、「食」の支援として夕食宅配（弁当配達）や、店舗での生協商品の販売をおこないました。また、介護事業に当たらない簡単な生活のお手伝いとして、当組合の「くらし助け合いの会（有償ボランティア）」の仕組みを住民主体・地域限定で活用いただくお手伝いをおこなうことで、生協の事業活動の理解と参加を広げるとともに、住民同士のおたがいさまの心を地域に広げることを目的に取り組みました。



他団体と協働することで発見したこと

地域の皆さんが住み慣れた地域で住み続けられる仕組みを鳥取県内全域につくっていくために、行政の支援も合わせて、地域住民の方々が主体的となり地域づくりが進むよう、さまざまな団体がつながり合いそれぞれの団体の特徴を活かし協働することが重要であることが改めて確認できました。地域の方々の具体的な声を自治連合会からお聞きすることで各地域での生協のお役立ちが深まるのではと考えます。

成果として評価できる点

自治連合会の皆さんも毎日5軒は声を掛けようと、地域内を訪問してチラシを渡したり、地域の方々から積極的にくらしの困りごとなどを聞き、生協の商品利用や助け合い活動への参加などで、「支え愛の店ながえ」に足を運んでいただくよう“住民主体の活動”の意識ができてきており、地域支援活動に関する協定を締結後、生協の存在が地域に少しずつ浸透してきていると感じています。「食」の支援：夕食宅配（27名登録）、商品利用（10万円）。助け合い活動：活動員登録27名、利用者32名、総活動時間200時間（主な活動内容は、家の片付け、草取り、衣類整理、剪定、ゴミ処理、書類整理など）。

生協が担った具体的な役割

将来イメージは、「支え愛の店ながえ」を拠点とし、“食（夕食宅配と販売）”、“くらしの助け合い（有償ボランティア活動）”を自治連合会が中心に住民主体ですすめることですが、立ち上げから運営が軌道に乗るまでは当組合職員（1名）が常駐し、常駐されているコーディネータと永江地区自治連合会への支援（運営ノウハウ、商品管理、出納、広報など）をおこないました。

将来イメージ

以上の活動から得られる収益を自治連合会に蓄積し、助成期間が終了した後も持続可能な取り組みとして定着するよう、広報の強化をおこなうこと。また、「支え愛の店ながえ」が情報交換の拠点となるよう、定期的な「サロン」開催にむけ自治連合会と検討をすすめていきます。そして、今まで準備し積み重ねたものが後退しないよう、より地域に密着すべく、参加人数を広げていきます。

あったかフードバンク大泉

東京保健生活協同組合 / あったかフードバンク大泉

<https://tokyo-health.coop/activities/forsocialproblem/foodbankpantry/oizumi.shtml>

活動のきっかけ

受診に至らない方々への支援の必要性は感じている一方で、コロナ患者の受け入れなどもしており実際に活動をする余裕はありませんでした。あったかフードバンク大泉の皆さんが困窮した方を目の当たりにし、自分たちにできる活動をしたいとのことで協力の要請があったため、法人としてもできるだけ協力して安心して住み続けられる地域づくりの一翼を担うために取り組みました。



活動内容概要

月に1回、大泉生協病院の敷地にて近隣の生活困窮者を対象に食料品と日用品を配布し、病院職員が健康相談や生活相談をおこなっています。開催に向け、当生協の組合員や地域の農家、パン屋などから物資の提供をいただいています。第2週にセカンドハーベストからの物資を受け取り、第3火曜日・水曜日に支援物資などを受け付け、第3木曜日に袋詰め、第3金曜日午前中に野菜をいただき、袋詰めて午後配布という流れになっています。



他団体と協働することで発見したこと

日常的な組合員活動だけでなく、地域諸団体との連携で当生協の組合員や職員が活躍できる場があることを見つけました。また、こうした取り組みを広げるにあたり、社会福祉協議会や地域商店街などの相談・連携先が広がりました。地域には、こうした活動に協力してくださる団体が色々あることがわかり、活動を発信してつながりを求める大事さがわかりました。

成果として評価できる点

決して交通アクセスの良い場所ではないにも関わらず、100人以上の方が利用されています。新型コロナウイルスの影響や物価高騰によって生活困窮者が増えたこと。フードバンクの取り組みを約2年継続したことで地域に定着しつつあること。当生協組合員が中心になっているため、支部だよりや、口コミでも広がり、いろいろな方が利用していること。70代以上の独居の方の利用が多く毎月定期的におこなっているため、頼りにされていること。今までに活動していなかった組合員さんで定期的に物資を届けてくださったり、お手伝いして下さったりする方とつながりができたこと。今まであまりつながりがなかった他団体との成果として挙げられます。

生協が担った具体的な役割

病院の敷地や物品の保管・仕分け場所として病院近くにある組合員ルームの無償提供をしています。病院の職員は健康や生活に関する相談の窓口になりました。広報では当生協の組合員向けのお知らせや大泉生協病院での掲示、病院のHPへの掲載、気になる患者さんにも個別にお知らせしています。職員へのカンパランチやカンパ物資の提供への協力、援助の必要と思われる方へのお知らせの発送もおこなっています。

将来イメージ

コロナの感染拡大状況にもよりますが、このまま終息したら、食料配布だけでなく子ども食堂や大人食堂などによる孤食の予防や多世代交流に取り組みたいです。いつでも立ち寄れる場所ができることで、地域での孤立を防げと思います。現在の参加者の中にも、もらうばかりでなく支援も手伝いたいと言って、実行委員になってくださった方や、当日のお手伝いをしてくださる方もいます。そういった地域で助け合える取り組みに発展できたらうれしいです。現在、社協からの物資提供はありますが、行政からの援助はありません。生活保護費の増額や、必要な方への就労支援などをするように要請していきたいと思えます

大人のトライやるウィーク参加してみよう！ ボランティア！

生活協同組合コープこうべ 第5地区本部 / しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西・神戸ウエスト

<https://www.s-kobewest.com/>

活動のきっかけ

イベントへの参加、フードライブのシェア会で他団体との交流も積極的に企画してきました。安全・安心である食品とともに、「安全・安心なつながりの場」としてのコープこうべの役割を必要としており、「ひとりが万人のために、万人がひとりのために」というコープこうべの理念にも即しています。互いをプラットフォームにした活動が有効であると考えており、今回の協同の運びとなりました。



活動内容概要

協力団体の活動にグループで参加、ボランティア体験をし、それぞれが感じたことを2月の報告会で発表していただきました。ひとり親家庭当事者がパソコン作業や伝達することを楽しんでいただきながら学習し、自らの活動を発表することで自己肯定感を高めました。また地域住民も地域のなかでの困りごとを共有すること、その解決を担っている団体の活動に参加することで自らの体験とし、ボランティアを増やすことを目指しました。



他団体と協働することで発見したこと

ひとり親家庭の方が活動する様子や報告を見聞きすることができました。スキルアップや地域貢献活動をつうじて成長を喜ばれ、今後の地域でのボランティア活動にもつながっていくであろうことが予感されました。生協にとって、普段の活動であまり触れることのない分野の取り組みを知ることができ、今後の生協活動にも活かせそうだと感じました。

成果として評価できる点

支援の対象とされているシングルマザーですが、ほかの子育て中の世帯や多世代とつながることで自己肯定感を持つことができていった過程など、報告会で悩みや解決方法を共有することで、家庭内や地域における問題の解決に取り組める可能性を感じています。

生協が担った具体的な役割

ボランティアの参加を促す広報や、報告会への動員の広報の役割を担いました。地域のなかでの困りごとを共有すること、その解決を担っている団体の活動に参加し、ボランティアの層を広げました。

将来イメージ

地域の困りごとに対して、有効な知識を持った地域の人材を多く育成し、今後の地域のボランティア・福祉の担い手の層の厚さを形成していきます。時代に沿った発信やコミュニティの変化にスピーディーに対応できるよう、パソコンなどの知識もメンバーに学んでいってもらいたいと考えます。パソコン技能の習得や地域のなかでかかわる人たちを増やすことは、シングルマザーの就労が向上すると共に、次世代を担う子どもたちにとっても好影響を与え、豊かな地域になっていくことと考えます。参加の場を外部に持つことで、さらなる地域住民との共同を目指し、シングルマザー以外にも参加の輪が広がるようにしていきたいです。

いのちとくらしの実行委員会（映画祭&講演会）

生活協同組合コープ自然派兵庫 / 特定非営利活動法人フードバンク関西 /
生活協同組合コープこうべ / 地域でつくるこどもの居場所・はぐくみ /
こわすな憲法！いのちとくらし！市民デモ HYOGO

<https://www.shizenha.net/hyogo/report/24257/>

活動のきっかけ

生協の活動で取り組みが進んでいなかった貧困問題を市民活動団体と一緒に取り組んだ映画上映会が協働の始まりです。その後、開催した講演会のブース出展者として参加していたフードバンク関西に加わっていただき2018年度より、いのちとくらしの映画祭実行委員会として活動しています。2019年度からはコープこうべも参画し、市民団体、NPO、生協、ブース出展団体も広がり、つながりを深めています。



活動内容概要

映画祭と講演会をメインに、映画はケン・ローチ監督の「家族を想うとき」、講師は料理研究家であり社会活動家の枝元なほみさんに依頼しました。残念ながら枝元さんの体調不良のため講演会はおこなえず、ブース出展団体と実行委員団体の合わせて10団体の活動発表をおこないました。各団体の活動発表は女性、子ども、シングル世帯、障害を持つ人、ホームレス、ヤングケアラー等々、様々な困難を抱える人たちを支える活動報告でした。



他団体と協働することで発見したこと

映画祭に向け毎月のように実施した実行委員会では、その度各団体の活動報告・情報交換をおこないました。学校が休みとなる夏休みや年末年始は、昼食が食べられない子どもがいる現状や食料支援が生きる力になっている親子の話など聞き、食品のお届けや子ども食堂はお腹だけでなく、心も満たす場であることを学びました。協働することで、つながる団体は増え、地域課題の詳細を知る機会となりました。

成果として評価できる点

年に一度の映画祭を継続開催できたことは大きな成果。開催の数日前に講師より体調不良のため講演会中止の連絡が入り、緊急実行委員会をおこない、本来は予定していなかったブース出展団体の活動発表にプログラムを変更し映画祭を開催することができました。各団体の活動アピールは、「支援を必要とする方の生の声が聴けて良かった」「自分でできることを考えます」「視野が広がった」など、参加者の心に響く内容でした。出展団体からは発表することで交流が深まり、つながりも広がったと喜んでいただけました。フードライブの案内チラシや参加プレゼントにお渡ししたノートの寄付の呼びかけは、誰かのために何かをする意識づけになりました。

生協が担った具体的な役割

事務局として実行委員会の日程調整、会議準備として会場手配、議案書等の資料作り。映画祭ではチラシの作成、会場手配、講師依頼、出展団体との連絡、参加申込の受付、イベント当日はスタッフとしての実行委員会以外の役職員も加わりました。

将来イメージ

誰もが尊厳を持って生きられる社会にするため、いのちとくらしの映画祭を継続しておこないます。映画選定の良さからも次年度の開催を期待する人が増えています。実行委員会の構成メンバーが広がり、関わる人や団体の増加と連携が深まることにより、地域全体として貧困問題への関心が高まる発展をイメージしております。多くの人に社会的課題に興味を持ってもらえるよう企画し活動を広く伝えることは、支援する、支援される関係ではなく、互いが共に生きることに向きで、生きがいを持つ社会になると考えています。

放課後学習支援

生活協同組合コープこうべ / がんばるもん実行委員会

<https://ganbarumon.info/>

活動のきっかけ

中学生の学習支援をしていた時に、小学生での基礎のつまずきが気になりました。中学生になってから心機一転、遡って復習しようとしても、基礎がわからないまま進む学習に、諦めてしまう生徒がたくさんいました。そこで、小学生で家庭での学習環境のままならない、その学年で履修すべきことを理解しないまま進級してしまいそうな児童を対象に、学習習慣をつけ、問題が解けた時の喜びを体感することを目的に、学校と連携した放課後学習教室を始めました。



活動内容概要

活動場所は学校の都合で図書室となりました。3、4、5年生を対象にしました。他校の校長からの依頼を受け、東灘区の住吉小学校、魚崎小学校、本庄小学校でも今までのノウハウを活かし、放課後学習教室を運営しました。九九から段階的に丁寧に復習する学校。宿題の完成と提出を優先させる学校。それぞれの学校の児童の状況、先生からの要望に沿う形で合計5校が教材などは共有しながらオリジナルの放課後学習教室を運営しました。



他団体と協働することで発見したこと

企画をするにあたっての準備の早さや具体案、それが上手いかない場合の代替案の立て方など、イベントを開催するときの流れを協働していく中で学ぶことができました。また、私たちの中では学校に人が足りないという誰でも知っていると思っている現状が世間ではまだまだ認知されていないこと、学校の役割、家庭の役割、親の責任、などは世代間で大きく違うことなども発見しました。共通認識の大切さを再確認しました。

成果として評価できる点

統合したばかりの新設校で、今までと同じ形で実施できたことは、5年間工夫を重ねてきた成果として評価できると考えています。児童にとり学校からの移動は、特に暑い夏や、雨の日には負担です。必要な支援を子どものメリットを最優先に考え、放課後の教室利用にこだわったことは、だからこそ、なかなか広まらないジレンマも抱えますが、同じやり方の学校が5校に増えたことが今年度の何よりの評価できることです。「地域ささえあい助成」で運営されるコープ共催の恒例の「保護者や市民と学校をつなぐシンポジウム」では教育委員会の後援も得て共に内容を考え進行することができ、ハイブリッドですが200人の集客ができたことも評価できると考えます。

生協が担った具体的な役割

教育と地域の関わりをテーマとしたシンポジウムや勉強会の企画・運営や広報を連携して実施しました。また、放課後学習にボランティアとして職員が参加しています。普段の事業では接点をもちにくい、子育て世代や学校、教育関係の方と交流が持てる貴重な機会をつくることができました。

将来イメージ

支援を必要とする児童はどここの学校にも存在するため市内の全ての学校に設置され、学校の抱える多忙問題解消の一端を担う役割を果たしたいと考えます。ノウハウは確立できたので核となるコーディネートの養成も活動の柱とします。ボランティアスタッフの数が多く幅広い支援が可能になります。児童に「教える」ことだけでなく「寄り添う」ことも求められ、スタッフにとっても達成感のある活動になっていくと考えます。学校近隣に住んでいる人に気軽に関わってもらえるような仕組みを作りを目指し、今までにない新しい地域コミュニティを創ります。地元企業とタイアップし地域で子育てする楽しみを分かち合うお世話役の団体になります。

福井県フードバンク連絡会の設立を目指す (福井県民生協、県内の食品提供事業者等をつなぐ連絡会の結成)

福井県民生活協同組合 / こども食堂ネットワークふくい

<https://www.fukui.coop/community/society/>

活動のきっかけ

食品ロス削減の視点から宅配での余剰食品を県内のこども食堂に提供を始めたことや店舗でのフードドライブ食品を地域のこども食堂に提供を始めたこと、そして福井県から「フードバンクモデル事業」の委託を受け、県内の小売業や協同組合などと連携ができ、県内のこども食堂に食品提供を実施した。食品提供事業者のネットワークづくりをおこなうことで、さらに子ども食堂への食品提供の強化と顔の見える関係づくりをめざそうと考えた。



活動内容概要

フードバンク活動を通じて関係のできた、福井県内のこども食堂と生協以外のフードバンク食品提供事業者（お取引事業者や県内の地域スーパー）のつながりを促進するために、食品提供事業者を中心に「福井県フードバンク連絡会」を9月9日設立（福井県民生協が代表と事務局）し、地域における日常的なフードバンク活動（食品提供事業者からこども食堂への食品提供）の促進をはかり、地域のフードバンク活動を広げることができた。



他団体と協働することで発見したこと

9月9日11団体で設立集会を開催。県内の有力な小売業、JAなど協同組合の連絡会への参加とこども食堂ネットワークふくいの代表4人の参加により、新聞・テレビのマスメディアで報道され、フードバンク活動への地域の関心を引き起こすことができた。地域団体からの問い合わせや食品提供などの連絡もあり、ネットワークすることでより大きな力を持つことができた。

成果として評価できる点

2014年以降のフードバンク活動と県からもモデル事業委託を踏まえ、生協が県内の食品提供事業者のネットワークを構築したこと。設立集会には、福井県から循環社会推進課と児童家庭課の主任の出席、福井県社会福祉協議会の事務局長の来賓出席も受けることができ、地域社会からの支援と期待も受けたこと。

子ども食堂の希望を聞きながら、ささえあい助成を活用して、フードバンク活動の際にコープ商品をプラスして提供し、満足度を高めることができた。11月8日の子ども食堂ふくいシンポジウムに呼んでもらい、生協と連絡会の活動の報告をすることができ、こども食堂ネットワークふくいとのつながりもさらにすすめることができた。

生協が担った具体的な役割

県内の食品提供事業者をネットワークし、福井県フードバンク連絡会を結成し、連絡会の代表と事務局を担った。食品提供事業者と子ども食堂ネットワークふくいとの顔の見える関係づくりをおこなった。

将来イメージ

子どもや地域の高齢者一人親家庭などの居場所づくりとしてのこども食堂は、福井県内30を超える規模になっており、2022年度のコロナ感染者拡大や急激な物価高騰のなか、生活は依然厳しい状況にある。安心して暮らせる地域社会を目指して、食品だけでなく日用品などの支援、また県内の各団体が取り組むイベントへの参加など地域社会全体で支えるネットワークづくりが広がることが望ましい。そのために、さらに食品提供事業者や団体の連絡会への加入促進や、こども食堂ネットワークふくいと交流を通じて、福井県内にお互い顔の見える支援の輪が広がるよう活動をすすめたい。

「大学生の食の応援共同事業」の発展

生活協同組合おかやまコープ / 岡山大学生生活協同組合 / おかやまコープ虹の会

https://okayama.coop/information/detail.php?id_information=2622

活動のきっかけ

切れ間ない組合員貢献を目指す 2030 ビジョンを掲げる地域生協と大学生協の食を中心とした協働や連携をすすめるための足掛かりとして、岡山大学生協「食堂レシピコンテスト企画 2022」へ協力することとしました。

活動内容概要

大学生が麺をテーマにしたレシピをノミネートし、大学生協の食堂を利用する学生の投票により最終的にノミネートされた8つのレシピについて、おかやまコープの組合員理事、組合員講師が「栄養価」「彩り」「簡便性」に配慮したレシピになるようブラッシュアップしました。その内2つのレシピは、オンラインで試作実演し動画を学生に提供しました。また、大学生協の食堂で期間限定で提供されました。下の写真は「食堂レシピコンテスト企画 2022」1位の冷やしレモンラーメンです。



他団体と協働することで発見したこと

大学生と協働する中で彼らの発想の豊かさを感じることができました。生協の組合員活動の発信方法等、彼らと協働することで私たちが抱えている問題の改善につながる方向につなげていけたらと考えています。

成果として評価できる点

若者世代との協働をすすめるきっかけが作れ、現場レベルの交流をはかる機会となりました。

生協が担った具体的な役割

新型コロナウイルス感染拡大の影響が長期化し、生活の変化による食生活の乱れや心身の不調が心配される大学生を食生活の面で支援するため、レシピをブラッシュアップし、学生とオンラインで結んでレシピを試作・実演しました。また、学生さんから食に関する話題を中心に交流しました。レシピを試作・実演した動画も提供しました。

将来イメージ

今回は今後の協働を検討するうえでのきっかけ作りとして取り組みました。若者世代と交流することで生協の活動を彼らに知って貰い、活動に関わってもらう機会につなげていきたいと考えています（子ども食堂での学習支援等）。

新しい協働ステーションにおける 「えんがわマルシェ」づくり

生活協働組合コープぎふ 岐阜西支所 / 社会福祉法人いぶき福祉会

<https://ibuki-komado.com/>

活動のきっかけ

いぶき福祉会とは1995年の同法人の設立以来、地域イベントや平和活動で協同をすすめています。2022年からいぶき福祉会の事業所とショップ、コープステーションを併設した協働ステーションを計画するにあたり、2019年度から継続してきたコミュニティガーデンのワークショップに加え、定期的にマルシェを開きその様子を伝えるカワラ版を発行し、障害のある人の就労機会や地域の交流と学習の機会を作りたいと考えました。



活動内容概要

いぶき福祉会への助成金が不調となりステーション整備ができませんでした。いぶきの事業所でのマルシェは7月から毎月開催（8月をのぞく）。カワラ版の発行（毎月1,500部）も継続することができました。同法人の利用者がマルシェでは受付、案内、販売、団子焼きなど、カワラ版の地域配布などの役割をにない、就労や社会参加の機会がうまれました。コミュニティガーデンのワークショップ（植替え、クラフト）も開催しました。



他団体と協働することで発見したこと

「障害のある人のためにできること」ではなく、「障害のある人が地域のためにできること」を考え、場をひらき、枠組みをはずした多様な「かかわりしろ」をつくる活動の大切さを再認識します。小さな接点を重ねる価値を感じながら、なにより「やっぱり私たちは直に人と会いたかったんだ」ということに気づきました。非効率やわざわざ手間をかけること、分解して多様な役割をつくることに、人間らしい暮らしの可能性を感じます。

成果として評価できる点

校区内にいぶきがあることを知らなかった組合員が、マルシェをきっかけに存在を知り、「気づけてよかった、何かしたい」と親子で関心を強めている声も届いている。チラシは近隣小学校からの申し出で全校800名へのデジタル配信され、予想以上の活動の浸透につながっていると思われる。ピースカフェ、国産メンマづくりワークショップなど（本助成とは別だが）発展した企画を、いぶき福祉会の事業所で展開する動きも広がった。学習会や地域交流の場所が確保できなかつたり、小さい子どもを連れて気軽に参加しづらかつたりすることも、いぶきの空間活用で敷居が下がっていて、ステーション機能には至らないが、つながりの場所にはなっている。

生協が担った具体的な役割

マルシェのテーマを、いぶき福祉会のスタッフと意見交換をしながら設定。いぶきの活動発信と関係づけながら防災や環境などのテーマも設けました。コロナへの対応もあり組合員への参加よびかけが慎重になりましたが、理事やエリア委員で声かけをし、地域の組合員と福祉作業所をつなげる活動を重ねました。ステーションと配達職員のいぶき福祉会の商品の学習を通じ、福祉のものづくりの理解を深めました。

将来イメージ

いぶきの利用者が仕分けた商品を組合員さんが受取るステーションと、組合員をとわず地域の方が理由もなく溜まったり買い物もできるいぶきのショップ、マルシェやワークショップができるガーデンがある協働ステーションの可能性は探り続けます。拠点整備の財源と（障害のある人を支援する）人材確保に難航するいぶき福祉会の事情によらざるをえませんが、模索する間、出会いや交流だけではなく、さらに踏み込んだ共同学習に発展させられればと思います。防災やリサイクルをマルシェでとりあげたことや、以前から協同する平和活動などをベースに取り組みたいと思います。今年うまれた子どもたちの関わりしろを丁寧に育みたいと思います。

Web アプリを活用した地域資源の見える化と活動団体支援強化による重層的支援体制の確立

生活協同組合コープこうべ 第2地区本部 / 特定非営利活動法人あしやNPOセンター / 芦屋市 / 芦屋市社会福祉協議会

<https://pc.tamemap.net/2820601?lat=34.7304845&level=5000&lng=135.30330960000003&locale=ja>

活動のきっかけ

- ・ 地域活動において、高齢化による担い手の減少によって、活動を中止するグループが増えている。
- ・ 一方で、芦屋市では生涯学習への関心は高く参加者も多いが、インプットしたものをアウトプットする活動の場とのつながりは強くない。「学び」と「活動」の場をつないで見える化することで、地域での社会参加の場を増やす。
- ・ 障がい者の居場所や様々な相談のできる場所の情報が一元的に集約されていない。



活動内容概要

生涯学習を希望する市民を対象に、令和3年度、整備した情報プラットフォーム「ためまっぷ芦屋」を活用して既存の活動団体など学びのアウトプットの場を発信した。また、学びの場から新規活動を希望する方への立ち上げ支援をおこなった。既存の団体へは、「ためまっぷ芦屋」を活用した情報の拡散と、中間支援団体の強みを活かしたコンテンツの充実のサポートを通じて団体のアップグレードをはかった。



他団体と協働することで発見したこと

芦屋市主催の地域共生社会推進の事業者連携の「こえる場」や様々なイベントを通じて、生協、行政、社協、NPOなど、地域には「学び」機会を提供している団体がたくさんあり、またそれぞれにつながっている地域活動グループも異なることが分かった。この多様な「学び」の機会と「地域活動」を見える化しつなぐことによって、活動人口の増加・社会参加の機会の増加を発見した。

成果として評価できる点

利用団体としては行政機関の利用も増えてきており、「身近な取り組みをタイムリーに知ることができ、地域で浸透したら、地域活動の促進につながる」「ためまっぷ芦屋を使ったスタンプラリーのようなイベントで、地域資源の登録増と認知度アップがはかれたらよいと思う」など行政からの直の意見もいただいた。利用者は4月3,424件から1月31日時点で3,820件に、PVは28,753から33,241に上昇した。プログラムの製作者、運営者、利用者がよい循環でプログラムの改善に関わりながら広げてきた結果が数字に表れてきていると思われる。

生協が担った具体的な役割

- ・ 生協が主催する「学び」の場や、支援する地域活動団体の活動の情報共有
- ・ 市民にとって使いやすいUI・UXに向けての連携会議への参加
- ・ Webアプリ本格稼働時に生協の持つ店舗・宅配などのタッチポイントでの広報の実施

将来イメージ

活動団体がアップグレードされ、Webにも慣れたことで、ためまっぷ芦屋がまちの掲示板として、今日遊ぶところ、今日学ぶところ、今日出会うところ、今日活動できるところ、今日相談できるところ、全てがためまっぷ芦屋から発信され、簡単にアクセスでき、今、歩いて、車で、時間のジレンマもなく、全ての活動につながる情報ツールとなっている。ためまっぷ芦屋を通じて活動の協働、または住み分けが生まれ、参加できる場が増え、活動の担い手が多く生まれる。

現状、分断されている地域福祉活動と市民活動の架け橋的なツールとして、ためまっぷを活用できている。

大庄元気むら～コープさんとこ

生活協同組合コープこうべ 第1地区本部 / 大庄元気むら

<https://instagram.com/osyochiikika>

活動のきっかけ

高齢化とともに地域へ出る機会がなくなったり、一方では介護保険制度サービスだけでは地域社会での生活を続けることが困難な人もいます。また家にいても居場所がない、一人暮らしでは会話もなく認知症がすすむなどのリスクもあり、店舗閉店後に地域の方々が中心になって居場所として立ち上がりました。



活動内容概要

地域社会との関わりでは、地域の方々と一緒に河川のごみや街中のごみ拾い、近隣の学校の文化祭を元気むらのメンバーと合同でする、また元気むらの施設ではマルシェをおこないコロナの中ではありますが、いろいろな方とのふれあいができました。居場所としては高齢者のみならず、子どもの利用が進むなど多世代の方にご利用いただいています。



他団体と協働することで発見したこと

活動は増えているが、担い手が少なくまた資金面でのやりくりもあります。

いろいろな活動があるので、もっと視野をひろげていろいろな団体との交流ができるのではないかと考えています。

成果として評価できる点

活動を開始してから3年がたち、助成金を活用することで集客型のイベントが実施でき、そのことで元気むらでいろいろな活動をしてみたいという声があがってきたこと。

生協が担った具体的な役割

生協も1参加者という立場を示しながら、時には助言をしたり、他地域の情報を提供したり、活動者との友好関係を築いたことです。

将来イメージ

- ・ いろいろな人と触れ合うことで閉じこもりの防止につながる。
- ・ 仲間づくりの場となり、日常での支え合いの輪がひろがる。
- ・ 自分の特技が活かされることで、生きがいや社会参加意欲が高まる。
- ・ 地域交流や異世代交流の拠点となって、地域の活性化がすすむ。

このようなイメージですすめばいいと思います。

飛騨市北部（宮川町、河合町）から各地に、 地域サロンの広がりをつくる②

生活協同組合 コープぎふ / よらまいかびいず / ぴいちくサロン会

<https://www.coop-gifu.jp/>

活動のきっかけ

JA店舗の閉店等により買物困難者の課題が逼迫し、飛騨市×コープぎふ連携事業として、その対策の実証実験「買い物サロン」（2017年11月～2018年3月、3回実施）をおこなってきました。その過程で、住民有志によるグループ「よらまいかびいず」が誕生し、福祉的な要素も兼ねた地域サロンの運営が始まりました。メンバーの多くが生協組合員でもあったことから、サロン運営協力や地域情報のやりとりが継続しておこなわれ、近隣地域にも波及してきました。



活動内容概要

①5年目を迎えた既存サロンの運営改善をすすめつつ、サロンの発端ともなった買い物困難者対策として、「買い物バス」企画を実施。②楽しみながら皆がつながるサロン企画が、地域課題の解決にもつながるよう、多様な「多世代型の複合サロン運営応援」や「開催頻度の高い喫茶店」にも挑戦。③下期はコロナ禍環境が変化し、リモートサロンやその活用学習、地域インフラとしてのリモートの可能性試行はトーンダウン。④「サロン運営メンバーの学びの場+新たなサロンの核づくり」を推進すべく、先進サロン視察と運営交流を実施。



他団体と協働することで発見したこと

①地域の方々、住民自身の思いと主体性を大切に、地域の行動ルール（行政や社協の施策方針を含む）を大事にして、寄り添いいっしょに考えることの大切さ。②様々な属性のある団体が、ひとつにまとまった時、大きな力となって地域が動き出すこと。③これからの生協と地域とのスタンス、『そのめざす方向は「ゆるやかなつながりの中にある“確かな生協”」、そのために必要なことは「まきこまれ力」の発揮。』『いっしょに寄り添う力』が「まきこまれ力」につながることを、改めて確信できた。

成果として評価できる点

①各地のサロン運営を応援する新たなクラブが結成され、活動応援に留まらず、地域学校連携組織とも協働して、地域全体ですすめる行事の企画、発信等、新たな地域運営が起動。②先進地域サロン（愛知県やなマルシェ）の視察見学と交流を実施。JAや社会福祉協議会、行政からの参加も募り、皆で目指す方向が体感できたことから、JAの空き店舗が借用でき、毎週の喫茶店、毎月のばあちゃん食堂等につながった。③買い物困難者の地域課題として、買い物バス企画を3回実施、総括課題を抽出し提案を準備中。④公共バスを使った貨客混載の事業が起動。この間の飛騨市と生協との連携から、「買物支援に関する協定」が結ばれ、公共バスで生協商品を運搬する公民連携がすすんだ（C0・OPnavi誌2023年5月号掲載）。⑤23年度飛騨市事業予算では、この間の地域ささえあい助成における活動実績を反映させた内容が盛り込まれた。

生協が担った具体的な役割

①地域のコロナ対策状況把握、対策用備品の整備検討、リモートサロンやWeb環境整備等、コロナ禍での運営づくり。②行政や地域団体情報と運営課題のマッチング等、新サロン立ち上げやサロン運営にかかわる活動相談。③次年度につなぐ地域の展望づくりとして、「先進地サロン視察バス研修」の企画策定、および、地域他団体、行政、社協等への参加呼びかけ。④「地域ささえあい助成」事業年間計画全体の進捗管理にかかわる調整。

将来イメージ

現在のサロンを主体とした挑戦は、地域課題解決に直結して、2～3年後の地域づくりそのものにつながります。新しいサロン運営で実証されたように、地域みんなで考えて多様な実証実験を繰り返し続けること、それは地域コミュニティづくりの動きそのものであり、地域の希望であると考えます。①リモートによる地域インフラの活用が広がる。リモートサロン実証実験、スマホ相談会等、リモートに触れ体験することの第一歩がサロンの場からつながる。②多世代型サロンが媒介して、多様な団体や多世代がかかわることで生まれ蓄積される地域づくりの経験知が大切に継承され、地域課題を考えたり世代間をつないだりする場になっている。③買い物困難者対策では、貨客混載が推進され、生協の個人配達や介護食、移動販売車、出張販売、買物タクシー、等の多様な仕組みの相互連携がすすみ、サロンの場もその一部として機能している。

DV 被害者および母子家庭等貧困世帯の DV・虐待・貧困の連鎖を防ぐための活動

特定非営利活動法人 DV 対策センター / 東都生活協同組合

<https://dvtaisaku.jp/>

活動のきっかけ

未来につなぐ募金 2021 年度助成団体として登録されたことがきっかけで、DV 対策センターの活動について知り、その活動を高く評価し、協力・応援したいと思うとともに、2017 年に組織確認した「東都生協福祉政策 2025」でも掲げている、地域の人々の生活上の不安や困りごとに寄り添い、誠実に向き合いながら一緒に問題解決の糸口を探していくということに合致しているため協働するに至った。



活動内容概要

- 2022 年度内に、3 回のイベントを開催し、DV・虐待・貧困の連鎖を防ぎました。
①無料の食品配布会（1 回あたり延べ 100 名以上を想定）。②配布会に来た方へ無料のカウンセリング（カウンセラー 3～5 名在中、弁護士在中）。③ DV・虐待・貧困の連鎖を防ぐための講座を開講（学者さん等をお呼びした有料または寄付制の講座。母子家庭等貧困世帯の方は無料または安価）。④子ども達のためにプログラミング教室、工作教室、アート教室などを開催。
- 食品を取りに来られない方へ毎月宅配サービスをおこないました。



他団体と協働することで発見したこと

東都生協のご担当者様（伊藤さん）に、実際の団体のシエルトターに足をお運びいただき、利用者の現状についてご説明させていただく機会を設けさせていただきました。協働団体様にも団体の活動をより近い場所で見ってもらうことで、本活動についての必要性や活動理念についてより強い共通認識を持つことができました。また、当団体の活動チラシを組合員様向けに発行いただき、本活動や団体についての認知向上に貢献いただきました。

成果として評価できる点

食品配布に関しては、今年度通じて 260 世帯以上に配布することができ、果物、お野菜、お菓子などの嗜好品なども多く配布させていただき、昨今の物価高騰の中、利用者の方々から非常に喜ばれました。セミナー啓発に関しては、年間を通じて 250 名以上の方々にご視聴いただき、様々な啓発講座を多くの利用者に届けることができました。子ども向けイベントに関しては、8 月に大きな夏祭りイベントを開催しボランティアスタッフも含め 70 名以上の方々にご参加いただき、大盛況となりました。特にコロナ禍で夏のイベント中止が相次ぐ中、感染対策もおこないつつ、こういったイベントを開催できたことは非常に有難く感じております。

生協が担った具体的な役割

東都生協様からは、毎月野菜や果物から嗜好品に至るまで、多くの食品をいただいております。その他、毎月活動に必要なティッシュ、トイレトーパーなどの備品に関しても、いただいております。また、組合員様向けのチラシに、当団体の夏祭りイベントをご掲載いただきました。

将来イメージ

3 年目は、配布対象地域の拡大を目指してまいります。今年度までは、関東近県の方への（神奈川、東京中心）宅配が多い傾向にありましたが、今年度はより広い地域を対象として、一世帯でも多く支援できるような体制を築いてまいります。こうした配布対象者の拡大は、同時開催の啓発セミナー（オンライン or アーカイブ）の視聴者増にもつながり、団体の啓発活動も上げることができます。そのためセミナーでは、別れた後の養育費未払い問題や子育ての悩み、法的な問題など様々な観点からの啓発を強化してまいります。また会場でも、子ども向けイベント（プログラミング、アート語学教室）やママ向けイベントの充実をはかりたいと考えております。

SDGs を活かした地域コミュニティづくり

生活協同組合パルシステム千葉 / フードバンクちば / ワーカーズコープちば /
淑徳大学コミュニティ政策学部 消費者法研究室

<https://www.palsystem-chiba.coop/magazine/> ※「Palnote バックナンバー」の2023年3月号(vol-59)を参照。

活動のきっかけ

パルシステム千葉はコミュニティ生協として、くらし課題解決に取り組むことを方針としています。同時に、パルシステムの事業・活動は一人ひとりの「エシカル」な選択でSDGsの実現を目指しています。こうした背景を元に、地域社会が抱える多様な課題に対し、SDGsの観点から、生協と地域団体や大学がお互いの特色を活かして連携し、地域コミュニティづくりに取り組みたいと考え、2021年度に続いて活動してきました。

活動内容概要

昨年度に続き、SDGs達成に向けた取り組みをする連携団体と協働して活動を広げています。2022年度は各団体の特徴を活かした取り組み（コミュニティガーデンづくり、大学生による労働と消費に関する学習会）に加え、各団体間の連携をより深め、地域への取り組み認知度向上のため、イベント「わくわく体験まちづくり in ちば」の開催や、パルシステム千葉の地域活動施設「パルひろば☆ちば」での「SDGs講座」を実施しました。



他団体と協働することで発見したこと

今年度初めてイベント「わくわく体験まちづくり in ちば」を開催したことで、お互いの関係がより身近な存在となりました。地元の大学生が関わることで多世代交流の機会になり、学生が企画・運営をおこなうことで学生の主体性が養われ、学内だけでなく地域社会で活動する機会を得ることで、学生の積極性を発見することにつながっています。学習会も多世代の参加によって、多角的な視点によるディスカッションが進展しました。

成果として評価できる点

コミュニティガーデンづくりは当初想定していた地域住民の参加はまだ少ないですが、地元の福祉施設や企業、地元高校生の参加等他団体との連携の輪が広がりつつあります。フードバンクを利用されている福祉施設が安価で苗を分けてくれたり、地域の方が球根を寄贈してくれたり、公園の美化にも少しずつ注目していただけるようになりました。特に、今年はハーブの栽培がうまくいったので、来年はさらにたくさんの方達と分かち合えるようになればと思っています。淑徳大学の学生が企画・運営する「SDGsと消費・労働に関わる学習会」では、学生の視点から発信することで地域住民の消費者問題に対する関心がより一層高まる手ごたえを感じています。

生協が担った具体的な役割

連携団体の取り組みへのフォロー、連携団体との定例会議における事務局、広報物の作成等本取り組みの全般にわたって関わることが主な役割です。2023年度はコロナの影響でできなかった地域活動施設「パルひろば☆ちば」を活用した独自の取り組みに着手します。また、助成金を活用できる最終年度となりますので、終了後の道筋をつくることが重要な役割です。

将来イメージ

これまでの成果としては、連携団体間のつながりが深まったことや地元企業や、地元高校生の参加等他団体との連携の輪が広がりつつあることです。一方、課題は、地域住民の参加、参画が少ないことから地域の課題を十分につかめず、一緒に地域課題に取り組むという形には至っていないことです。このことから、次年度はこれまでの取り組みに固執せず、より多くの地域住民や団体が参画しやすい取り組みを実施し、地域住民同士が“ゆるく”交流できる地域コミュニティづくりを目指します。将来的には地域社会で顔の見える関係が広がり、コミュニティガーデンづくりの場や「地域活動施設パルひろば☆ちば」が地域の居場所になることをイメージしています。

コロナ禍において生活に影響が生じている学生への食料品配布・情報提供、および学生交流会の開催

大阪よどがわ市民生活協同組合 / 吹田市社会福祉協議会 / 吹田市社会福祉協議会施設連絡会

<https://suisyakyosiseturen.seesaa.net/>

活動のきっかけ

新型コロナウイルスによりアルバイト収入や実家からの仕送りが減った、学費が支払えないなど、学生生活にも大きな影響が生じていることがメディアで報じられたことをきっかけに、市内の大学に学生の生活状況のヒアリングを実施。ヒアリングを通じて経済的・精神的に困っている学生が多数いること、大学では学生の生活支援まで十分にできないことを聞き、学生への支援（食料品配布）や、学生同士の交流を実施。



活動内容概要

コロナウイルスにより生活に影響を受けている市内在住在学の学生を対象に、食料品を配布しました。食料品と共に相談窓口の情報や学生交流会に関する情報も提供することで、学生の持つ力を地域福祉の推進に活かしてもらえよう働きかけながら、学生のニーズ把握や、学生同士のつながりづくり、学生と地域のつながりを持てるきっかけづくりをおこないました。



他団体と協働することで発見したこと

それぞれの団体が持つ強みを再認識できました。大学生協にヒアリングをおこない、学生生活の現状を聞き取ることができたり、市内公立高校へのヒアリングが実施できたのも、他団体との協働や他団体が持つネットワークのおかげです。協働することで活動の幅が広がり、多方面へのアプローチが可能になりました。

成果として評価できる点

食料品を受け取った学生からは、「たくさんのご支援ありがとうございました。食費や電気代の高騰も厳しいのですが、国家試験間近で自炊をする時間が取れないので、簡単に用意できる食品がとても嬉しかったです」といった感想が寄せられ、食の支援を通じて学生生活のサポートができました。また、生協組合員や施設職員が「学生を応援しよう！」と共通の思いを持ってフードドライブに協力してくださったことは、協働による一つの成果といえます。組合員や施設職員に依頼して作成した学生への応援メッセージ集にも励まされたといった感想があったことから、学生の精神面へのサポートにもつながりました。

生協が担った具体的な役割

実行委員会の構成団体として、配布する食料品の手配や準備作業での場所提供、組合員へのフードドライブ協力呼びかけなどをおこないました。フードドライブ呼びかけではチラシを作成し、組合員へ呼びかけたほか、フードドライブで集まった食品の賞味期限確認や、食品カテゴリーの分類なども中心となって担いました。生協の組合員理事に協力を依頼し、学生への応援メッセージ集作成や食料品配布準備作業にも協力しました。

将来イメージ

コロナ禍による生活への影響は、今後、社会情勢の変化に伴い減少していくと考えられます。しかし、コロナ禍以前より生活に困窮されている方や、ヤングケアラーなど近年クローズアップされている生活課題を抱えた世帯へのアプローチも視野に入れ、配布の対象を高校生にも拡大しながらニーズの把握に努めつつ、学生が活躍できる場の創出や学生交流会の開催など、学生が地域とつながるきっかけを継続して持ち続けます。

「健康づくり」活動の輪が広がり、「地域に役立つ共同農園づくり」にステップアップしたい

愛媛医療生活協同組合 / 愛媛医療生協 共同農園レインボーファーム

<https://farmrainbow.wixsite.com/mysite/top>

活動のきっかけ

医療生協の「健康づくり活動」のひとつとして、家に閉じこもりがちな高齢者に農園活動を通じて「いきいきと生きられる」場づくりとして位置付けて、7年前に活動をスタートしました。同時にこの活動が、地域の諸団体との提携で、会員には「やりがいのある」活動に、提携団体には「喜ばれる」活動にできればと考えました。

活動内容概要

8050 問題が話題になる中、家に閉じこもりがちな高齢者に「火曜市」の野菜づくりという農園活動を通じて、「生き生きとした暮らしづくりの場」と併せて「健康づくり」につながる活動をしています。同時に共同農園という組織と運営で、地域の諸団体と「ふれあい」「提携」をつくり、社会への役立ち、会員の「やりがいと誇り」が持てる活動をしています。



他団体と協働することで発見したこと

レインボーファームの活動は、この7年間休むことなく活動しており、会員の広がりなど「健康づくり活動」の役割を当初の想定どおりに担ってきています。また、地域の諸団体と提携した活動は、提携先にも「喜ばれる活動」となり、そのことが会員の「やりがい」につながってきていることを実感しています。

成果として評価できる点

レインボーファームの活動が継続・拡大し、「健康づくり活動」の役割を当初の想定より担ってきています。また、地域の諸団体と提携した活動は、提携先にも「喜ばれる活動」となり、そのことが会員の「やりがい」につながってきています。こうした活動が医療生協のステイタスアップにつながってきているものと思います。

生協が担った具体的な役割

地域事業課を担当窓口にして、機関紙なども利用して組合員への農園活動の紹介、会員参加の呼びかけ、「火曜市」への病院敷地の利用とサポート、コピー、ラミネートなど事務用品の使用許可などのサポートをおこなっています。

将来イメージ

コープ共済連の助成を受け、農園のインフラ整備ができてきており、運営の方法、内容、スケジュール、スタイルなど確立もできてきています。こうした到達を踏まえ、さらに会員の広がり、新たな地域との提携の広がり、後継者育成などの運営体制の強化などで、継続的な活動となり、設立の目的、役割を担っていければと思います。

協働はじめる助成・協働ひろめる助成 2022年度助成のまとめ

地域ささえあい助成は2022年度に制度を改定し、「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」という2つの協働区分での助成を開始しました（詳しくは「はじめに」を参照）。このページでは、新制度の初年度となった2022年度の応募と助成の状況について概要をご報告します。

1. 応募と助成の件数

2022年度は40団体から応募いただき、31件に対して総額19,113,993円を助成しました。助成件数の内訳は、協働はじめる助成が12件、協働ひろめる助成が19件でした（表1）。2022年度に新規で助成した活動は31件中16件でした（表2）。

表1 応募と助成の件数と総額（金額単位：千円）

年度	2021年度			2022年度			2023年度			
	協働区分 (旧制度)	はじめる	ひろめる	合計	はじめる	ひろめる	合計	はじめる	ひろめる	合計
応募件数	40件	14件	26件	40件	9件	33件	42件			
助成件数	34件	12件	19件	31件	8件	27件	35件			
応募総額	31,347	6,184	20,931	27,115	3,938	27,559	31,497			
助成総額	21,149	5,366	13,747	19,113	3,364	20,583	23,948			

表2 各活動の助成決定時の助成回数

年度	2021年度	2022年度	2023年度
新規	16件	16件	17件
2回目	11件	8件	10件
3回目	7件	7件	8件
合計	34件	31件	35件

2. 応募団体の地域分布

応募団体（第一団体）の所在地の分布は下表のとおりです（表3）。21都道府県から応募いただきました。

表3 応募団体の地域分布

地域	応募件数	内訳
北海道・東北	4件	北海道3件、福島1件
関東・甲信越	6件	神奈川2件、東京2件、群馬1件、千葉1件
東海・北陸	8件	岐阜2件、三重2件、福井2件、愛知1件、富山1件
近畿	15件	大阪6件、兵庫5件、奈良3件、和歌山1件
中国・四国	3件	岡山1件、鳥取1件、愛媛1件
九州・沖縄	4件	福岡2件、大分1件、鹿児島1件
合計	40件	

3. 助成した活動のカテゴリー別の件数

助成金活用団体の取り組む活動のカテゴリー別の件数は下表のとおりです（表4、各活動を地域ささえあい助成事務局にてカテゴリーに分類しました）。

表4 助成した活動のカテゴリー別の件数

カテゴリー	件数
A. 居場所づくり	9件
B. 貧困対策・困窮者支援	3件
C. フードバンク・フードパントリー	3件
D. 子育て支援	1件
E. 健康づくり・傷病者支援	0件
F. おたがいさま・助け合い	2件
G. 災害支援・防災	2件
H. 買い物支援	1件
I. DV対策	1件
J. その他	9件
合計	31件





地域ささえあい助成

—生協と生協以外の団体の協働を応援します—

2022年度募集のお知らせ

生協は、組合員（生活者）が出資し、利用し、運営に参加する組織です。生協は100年にわたる歴史の中で組合員の声を聞き、共感を束ね、共に行動することでより良い暮らしを実現してきました。

このような背景を持つ生協が、様々な団体とつながり、協働することは、地域の課題解決や発展においても大きな力となるはずで。さらには、「地域共生社会」の実現に寄与するものと考えます。

そのため、本助成制度では、「生協」と「生協以外の団体」が「協働」しておこなう活動を支援します。異なる組織どうしが、思いを共有し、それぞれの持つ強みを生かして協働することにより、単独では成しえない成果を生み出すことを期待しています。

●応募受付期間

2021年10月15日(金)
～11月15日(月)

●助成対象期間

2022年4月1日(金)
～2023年3月31日(金)

●助成対象となる活動

地域共生社会の実現に向け、生協と生協以外の団体が協働しておこなう実践的な活動に対して助成します。



「地域共生社会」とは

地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会をいいます（厚生労働省「地域共生社会のポータルサイト」より）。

「生協」とは

消費生活協同組合法にもとづく法人をいいます。

「生協以外の団体」とは

生協以外の非営利法人（協同組合、社団法人、公益法人、NPO法人、中間法人、社会福祉法人、学校法人等）、市民団体、任意団体等をいいます。法人格の有無は問いません。

※以下、生協以外の団体を「団体」と表記します。

「協働」とは

受託・委託の関係ではなく、活動の目的を共有したうえで、それぞれの強みや資源を生かして役割を担い、それぞれの関わりの範囲で活動の経過と結果に責任を持つことをいいます。

<参考:これまでに助成した活動の例>

地域住民による高齢者等への生活支援のコーディネーター、障がい者の就労支援、震災による避難者の生活支援、フードバンク・フードドライブ活動、生活困窮者等への食糧支援や相談・カウンセリング、病気治療中の方やその家族に対する精神面でのサポートや社会に対する啓蒙活動、子育てひろばや地域サロンの開設・運営、DV被害者の生活支援 等



助成区分:「協働はじめる助成」と「協働ひろめる助成」

協働の状況に応じて、いずれかの助成区分にてご応募ください。

なお、応募にあたっては、活動を協働でおこなうことについての合意や、課題の共有がなされていることが必要です。

助成区分	協働はじめる助成 生協と団体が初めて協働する場合はこちら	協働ひろめる助成 生協と団体が過去に協働したことがある場合はこちら
助成金額上限	1つの活動について50万円	1つの活動について100万円
応募の制限	本区分での助成は、一連の活動に対して1回(1年間)限りです。	一連の活動に対する助成は、「協働はじめる助成」の助成期間を含めて、最大3年間です。
応募の窓口	生協または団体のいずれからでも応募いただけます。	生協のより主体的な関わりを期待しているため、ぜひ生協が窓口となってご応募ください。

※助成金総額は、「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」あわせて、最大2,500万円程度です。

助成対象となる費用

助成を受ける活動に直接かかる費用

※接待交際費、飲食費は対象となりません。

※人件費は助成金額の30%を上限として対象となります(「協働ひろめる助成」のみ)。

※具体的な費用項目等は、応募要項別紙「経費ガイドライン」をご参照ください。

選考方法

外部有識者およびコープ共済連関係者で構成する審査委員会にて審議のうえ、決定します。

※選考過程や個別の審査結果に関するお問い合わせには応じかねますので、ご了承ください。

応募スケジュール

応募受付期間	2021年10月15日(金)～11月15日(月)
助成決定	2022年3月中旬
選考結果通知	2022年3月下旬(メール通知)
助成金のお支払い	2022年4月～

応募要項、応募用紙の入手方法

「コープ共済オフィシャルホームページ」からダウンロードしてください。

※応募用紙(記入見本)、Q&A(よくあるご質問)、手引きもあわせてご確認ください。

URL <https://coopkyosai.coop/csr/socialwelfare/>

応募方法

応募要項をよくお読みいただき、次の①～⑤の書類を事務局宛にメールでご送付ください。

本助成制度は、協働する生協および団体の連名で応募していただきます。

- ① 応募用紙(様式1～様式5)
- ② 見積書等、支出の根拠となるもの
- ③ 定款、規約、会則、またはこれらに準ずるもの*
- ④ 前年度の事業報告書、または前年度の活動実績がわかるもの*
- ⑤ 前年度の決算報告書、または前年度の会計実績がわかるもの*

※③～⑤の書類については、協働する生協および団体すべてについて提出が必要です。

ただし、日本生協連またはコープ共済連の会員生協の場合は、③～⑤の提出は不要です。

制度全般に関するお問い合わせ先・応募書類送付先

日本コープ共済生活協同組合連合会(コープ共済連)
組合員参加推進部 地域ささえあい助成事務局

TEL 03-6836-1324(平日10:00～16:00)

メール contribution@coopkyosai.coop

協働に関するお問い合わせ・ご相談先

日本生活協同組合連合会(日本生協連)
社会・地域活動推進部 地域・コミュニティー担当

TEL 03-5778-8135(平日10:00～16:00)

メール chiiki-comm@jccu.coop

過去に助成した活動はホームページでご案内しています。

コープ ささえあい 報告集

検索

URL <https://coopkyosai.coop/csr/socialwelfare/report.html>

2022年度 フレンドリーサポート 実施報告

CO・OP共済 地域ささえあい助成では、「フレンドリーサポート」という名称で、各年度の助成金活用団体に対してアンケートや双方向的な意見交換を通じて活動の状況や助成金の活用状況を伺う取り組みを実施しています。

フレンドリーサポートとは？

2021年度までは「フォローアップ」として、「地域ささえあい助成」をより活用していただけるよう、事務局が助成金活用団体にヒアリングを実施してきました。①活動の継続状況（コロナ禍が活動に与えた影響含む）、②助成金の執行状況、③今後の活動見通しなどから、活動実施の効果や課題を共有するとともに、地域ささえあい助成の制度の改善にも役立てることを目的として実施していました。

2022年度より、この取り組みの呼称を「フレンドリーサポート」と改めました。この造語には、助成する・されるという関係にもとづく一方的なヒアリングではなく、おたがいに学びあえる機会にしたいという想いを込めています。事務局も助成金活用団体の皆様から学ばせていただきながら、皆様とともにより良い制度を作っていきたいと考えています。

フレンドリーサポートの実施概要

2022年度の助成金活用団体の全31団体を対象にアンケートを実施しました。その結果をふまえながら、はじめてお話を伺う団体を中心とした18団体を対象に、オンラインでヒアリングを実施しました。

フレンドリーサポートにおいて意見交換をしたテーマ

2022年度のフレンドリーサポートでは次の3つのテーマについて、当該団体の活動や本助成についての事務局との双方向的な意見交換をおこないました。

- 1 活動の状況および助成金の活用状況
- 2 協働・連携の状況
- 3 当該年度または次年度以降の展望

フレンドリーサポートを実施した結果の特徴的な状況

コロナ禍がひきつづき活動に影響を及ぼす一方で、コロナ禍で停止していた活動の再開や、コロナ禍を経て生じたニーズへの対応の模索など、コロナ以後の動きが活発になっている様子が伺えました。

団体と生協との協働に関しては、詳しくお話を伺うと、応募書類に書かれていた以上に協働が進展していることが見えたり、フレンドリーサポートで意見交換したことが停滞していた協働を前進させるきっかけとなったと感じられることが少なからずありました。また、事務局にとっても、各団体の地域に対する想いを感じたり、活動に関連する新たな言葉や考え方を学ぶことができたり、共済事業そのものだけではなかなかつながることができない団体との関係を深めることができる大変意義深い取り組みとなりました。

実施団体から寄せられた声

- ・フレンドリーサポートで温かな見守りをいただけたことで活動の励みになりました。
- ・金銭的な助成ももちろんありがたいですが、運営にあたってのアドバイスや、地域の生協との円滑な連携のためのサポートをいただけたのがとても助かりました。

フレンドリーサポートを実施した団体の事例

(1) 大庄元気むら～コープさんとこ

協働団体	生活協同組合コープこうべ 第1地区本部、大庄元気むら
意見交換した内容	新型コロナウイルス感染症と共存しながらすすめられ、予算はほぼ予定通りに執行されています。もともとお店があったところに立ち上げたため、地域包括支援センターのつながりで広がりがあります。自主自立の運営で、生協は依頼や相談があった場合に対応されています。尼崎市、武庫ウエル（商店街）など行政や地域との連携もすすめています。助成終了後も見据え、出店料の徴収、一部の有料化なども検討され、助成に頼らない運営をめざしているとのことでした。
まとめ	自主自立の運営が基本ですが、地域を巻き込んだ活動は先進的で、相談があった場合に対応すると伺いましたが、しっかりと組織化されていました。

(2) 和歌山県内の子ども食堂利用者や、ひとり親世帯を支援する活動

協働団体	和歌山県生活協同組合連合会、NPO 法人子ども食堂わかやま
意見交換した内容	フードパントリー活動は毎月の実施ですが、子ども食堂が新型コロナウイルス感染症の第7波の影響で停止されました。ハロウィン企画は実施するなど、徐々に活動再開しています。協働先とは2か月に一回程度、打ち合わせをしています。生協の災害備蓄品・ローリングストック品を配布し、医療生協も生活相談を実施しています。市町村社協とも交流し、県との連携も構築中です。高齢者福祉に注力するようめざすとのことでした。
まとめ	JA や社会福祉協議会との連携もされています。子ども食堂では単なる食料の提供でなく季節のイベント（ハロウィンやクリスマスなど）を意識して取り組まれている点が工夫されていました。

(3) 困窮するシングルマザー・女性・子どもへの食糧支援をつなぎ広げる事業

協働団体	一般社団法人シンママ大阪応援団、生活協同組合おおさかパルコープ
意見交換した内容	毎月200世帯前後に米、野菜、レトルト食品、お菓子等の食料品および日用品を詰め込んだ「スペシャルボックス」を送付。おおさかパルコープからのサポートは大きく、大阪よどがわ市民生協からの支援もあります。ほか行政からの災害備蓄品の紙おむつ・粉ミルクなども受け入れています。個人からの寄附金を1千万円に、サポーターの人数を現在の560名から1,000名まで増やしたいと考えています。2019年NHKラジオ深夜便で活動が放送されたのが大きいです（再放送2回）。前述2生協と、大阪東部市場、兵庫県漁協などから寄贈、各地シンママ団体、母子支援施設と連携もしています。サポーターが増えることで活動が多様化できます。活動8年目、安定した活動のため、自己資金率を高めたいとのことでした。
まとめ	マスコミ報道で支援者が増え、資金面も含め安定した活動となっています。他の地域にある各地のシンママ団体とも交流されているのは興味深いです。また、漁協からの寄贈をうまく必要な方に届けるなど、実績を伺って感心いたしました。



2022年度「CO・OP 共済 地域ささえあい助成 団体交流会」開催報告

地域ささえあい助成は、2022年度から新制度「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」での助成を開始しました。これに伴い、2022年度の団体交流会では、あらためて「協働」に焦点を絞り、各生協・団体がどのように協働関係を構築し、運営を工夫しているのか等を学びあい深めあい、自生協・団体の活動に活かせるヒントをみつけていただくことを目的としました。

開催日時

2022年10月27日(木) 13:30～16:30 オンライン開催
(当日参加できなかった方に向けて、後日、見逃し配信をおこないました。)

参加状況

33団体、55名(うち事務局13名、審査委員4名)

開催内容

i 開会挨拶 コープ共済連 総合マネジメント本部 本部長 渡邊 一巨

ii 分散会交流① アイスブレイク

iii 1団体・2生協からの活動報告

活動報告① 生活協同組合パルシステム千葉

組合員・産直・コミュニティ活動推進部 丸岡 真吾 様
(活動名称)「SDGsを活かした地域コミュニティづくり」

「SDGs」をキーワードに、地域団体とともに、それぞれの団体の特色を活かしながら、「コミュニティガーデンづくり」、「歩く健康体操『歩活』」、「淑徳大学生によるSDGs・消費者問題学習会」などの取り組みを実践されたこと、地域住民へ参加を呼びかけるための広報誌の発行などについて、報告いただきました。協働した結果として、地元の企業や学生の参加など連携の輪が広がっていることや、各団体が参加する定例の会議でそれぞれの取り組みを知る等の交流が広がっていることが報告されました。



活動報告② 鳥取県生活協同組合

管理本部 組織運営部 総合企画室 岡田 安弘 様
(活動名称)『支え愛の店ながえ』を拠点とした、生協と米子市
永江地区自治連合会協力による地域支え合い活動」

なだらかな丘陵地にあることから、徒歩でのお買い物が困難な地域である永江地区において、『支え愛の店ながえ』を拠点に住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための活動がすすめられています。鳥取県生協では、永江地区自治連合会と「地域支援活動に関する協定」を締結し、有償ボランティア、共同購入品の配達や御用聞き、冷凍弁当やトイレトーパーなどの在庫を置き地元住民がお届けするなどの地域と連携した取り組みを実施しています。



活動報告③ 一般社団法人あまみら

代表理事 近藤 真平 様
(活動名称)「被災地域のコミュニティの再生・繋がり作り事業」

一般社団法人あまみらでは、豪雨災害で被災した天瀬町にて、被災からの復興をきっかけとした地域コミュニティづくりに取り組まれています。コープおおいとは発災直後から復興ボランティア活動で連携を開始し、その後も炊き出し支援、復興イベント、惣菜移動販売の支援などをすすめてきました。今後に向けて、固定化されつつある参加者を広げていく課題や、ほかの地域からの参加によって災害の風化を防いだり住民を勇気づけたりできるといった展望なども報告いただきました。



iv クロストークと質疑応答

コーディネーター：日本生活協同組合連合会

組織推進本部 社会・地域活動推進部 地域コミュニティグループ グループマネージャー 前田 昌宏氏

クロストーク形式で、活動をすすめる中での困りごとや、それをどう乗り越えたか？など、活動報告をより深掘りしました。また、各活動報告を聞いた参加者から出された質問などについても、その場で回答いただきました。

v 分散会交流②+全体交流

Zoomのブレイクアウトルーム機能を使って少人数のグループに分かれ、自団体での取り組み実態や悩み等を共有し、今後に向けた展望を話し合いました。その後、分散会が出た意見等を全体で交流しました。

vi 閉会挨拶 コープ共済連 組合員参加推進部 部長 田中 美樹

参加者の声

- ◎ キーワードは「連携」！ 一団体ではできないことも、多様な団体が集まり、話をすることで形にできることがたくさんあるんだなと思いました。団体の特徴やカラーを出しつつ、それぞれの思いを形にすることは、難しいけれど楽しいことだと改めて感じました。
- ◎ 堅苦しく考えずにできるところからやっていく、気楽な気持ちで地域の方や団体と話し合っていくことも大切だと思いました。また、生協は寄り添う気持ちで接していくこと、主体は地域の方や団体という気持ちですすめていくことも大切だと思いました。
- ◎ 自団体だけでは活動のできる範囲が限られおり、地域の自治会やボランティア団体・学生などそれぞれの立場が強みを活かしながら協働していくことで、よりよい地域コミュニティづくりにつながると実感した。
- ◎ 千葉や鳥取の事例のように、実際に地域で多様な人が集まる場を仕掛け、具体的にことを起こすと、様々な交流や助け合いが生まれる素地ができるということを再確認できました。当たり前かもしれませんが、活動対象者のニーズに即した活動を展開するにあたって、変化しやすいニーズを随時把握しようとする姿勢が大事だと再確認しました。
- ◎ 連携・協働の強みや効果が学べました。皆さんのアイデアが素晴らしい！ 特にあまみらさんの若い方々が地域再生や住民のことを考えていろいろな活動をされていることに感動しました。たくさんの住民が勇気づけられていると思います。
- ◎ 分散会は和やかに運営していただき、毎回力をいただけます。同じような悩みを語り合え、あたたかい気持ちになりました。メンバーへ伝え、共有していきたいと思います。

【団体交流会参加者のスクリーンショット】



コーすけ誕生10周年 おめでとう!

われらが「コーすけ」はクマの生協職員として2012年に誕生し、CO・OP共済とともに、加入者の「明日の暮らし」をささえて、10年！本カードは、その瞬間と栄耀をたたえ、皆様と共に前うために記念として作成したものです。

これを知っていれば、あなたも立派なコーすけファン！コーすけにまつわるクイズ5題！

【コーすけクイズ5題!】

- ① コーすけの誕生日はいつ?
- ② コーすけのしっぽの形は何?
- ③ コーすけのロゴセ (決まり文句) は何?
- ④ コーすけがうるうるしてしまうのはどんな時?
- ⑤ コーすけのミッション (使命) は何?

答えはこの裏面にあります。

コーすけ10周年 特集記事!

2022年にコーすけが誕生してから10周年の節目をむかえ、多くの皆様にお祝いしていただきました。



コーすけを応援する仲間たち その1



●投稿情報①

撮影期間	2022年 7月~9月
参加者 (のべ人数)	316人
写真投稿 枚数	167枚
コーすけ (のべ体数)	877体

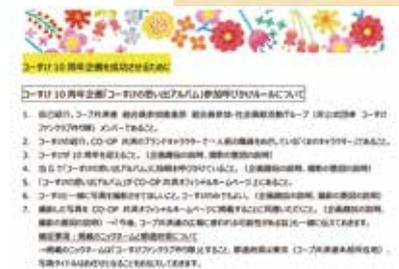
●ブランドサイト (コーすけの思い出アルバム) へのアクセス数推移

(企画を開始した8月度は前月比 389%。9月高止まり。)

月(年間)		2022年								
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
ページ ビュー数	ページが 何回見られたか	802	735	950	990	1,603	1,552	1,621	6,312	6,272
	前月対比	—	91.6%	129.3	104.2%	161.9%	96.8%	104.4%	389.4%	99.4%

「コーすけの思い出アルバム」企画に寄せて

「コーすけファンクラブ作り隊」を結成し、隊員を募集！
撮影にご協力いただくにあたっての隊員の心得とルールを定め、撮影・投稿しました。その心得とは「CO・OP共済のおすすめ」と同じ！個人情報を守り、ガイドラインに沿って気持ちよく協力していただき、コーすけ、CO・OP共済、生協ファンを増やすことです！



「コーすけの思い出アルバム」サイトはこちらから▶

コーすけを応援する仲間たち その2

8月8日の誕生日以降も全国各地のコーすけファンから投稿していただきました。



●投稿情報②

撮影期間	2022年 2023年 10月 ~ 3月
参加者 (のべ人数)	31人と2匹
写真投稿 枚数	25枚
コーすけ (のべ体数)	25体

10周年を記念に誕生した「コーすけツール」のご紹介



キーホルダー、バースデーカード、
フォトカード、お問い合わせ先マグネット
などのツールも誕生したのだ!



\\ これからもコーすけはがんばるみんなを応援しているのだ! //

いくつかのツールはこれからもCO・OP共済を盛り上げていきます!

「コーすけ10周年記念サイト」のご案内

コーすけ10周年記念サイトが、2022年9月1日にオープンいたしました。

👉 <https://cosuke.coopkyosai.coop/10th/>

10周年に関連する各企画をご紹介するとともに、コーすけのプロフィールやこれまでのあゆみも掲載されています。また、応援して下さった皆様への感謝のメッセージ動画もご覧いただけます。ぜひご覧いただくとともに、組合員の皆様へもコーすけの10周年を広くお知らせいただけますと幸いです。



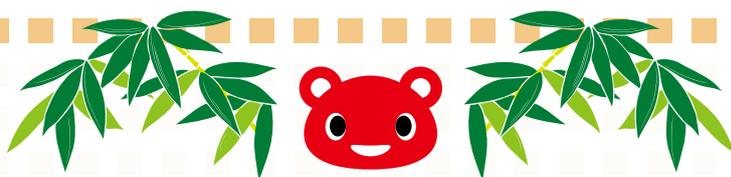
こちらには
「ご当地コーすけ」
の投票結果など
コーすけの情報が
満載なのだ!

コーすけ10周年バナー (イラストのご紹介)



事務局から本企画にご協力いただいた皆様へ 感謝を込めて…

今回の企画を通じ、アルバムには街で見かけたコーすけやコーすけと笑顔の人々が写る素敵な写真がたくさん掲載されました。1枚1枚の写真を拝見しコーすけが全国の多くの生協組合員、職員の皆様に愛されながら10年の節目を迎えられたことを感じ、嬉しく思います。写真撮影や投稿にご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。これからもコーすけと共にたくさんの方のお役に立てるよう取り組んでまいります。



CO・OP共済 地域ささえあい助成 10年間の活動エピソード作文募集企画

応募期間

2022年6月17日(金)～

1次締め切り：8月31日(水)／2次締め切り：11月30日(水) 各日23:59まで

応募テーマ

「地域ささえあい助成」らしさを感じたエピソードをお寄せください。

～当時の活動内容や地域や社会への想い、そして現在の活動のようすなどをお寄せください～

応募資格

「地域ささえあい助成」の助成を受けて取り組まれた活動に参加(*)された方なら、どなたでもご応募いただけます。

(*)過去10年間の活動報告集に掲載のある活動に参加

※ 生協組合員加入有無、CO・OP共済加入有無は問いません。

※ 過去の報告集はCO・OP共済オフィシャルホームページよりご覧ください。



地域ささえあい事業 10周年によせて

高知医療生活協同組合 上田 亮太 (あげた りょうた) 様

「地域ささえあい助成事業」10周年おめでとうございます。初年度(2012年度)の対象事業となった「くらしといのち何でも相談会」は、弁護士や司法書士、社会福祉士等の各専門職団体ご協力のもと無料相談会として開催いたしました。県下17会場にて2012年11月から翌1月までの期間に電話相談含め75名の相談に応じ各専門職と地域の支援団体、医療生協との共働の力で県民の悩みに寄り添うことができました。悩みを抱えていても周りに相談する人や施設が無いことも多く、県下で大規模に開催することができたことは大きな意味があると考えています。このような規模での開催ができる原資として地域ささえあい助成を活用させていただき感謝申し上げます。「くらしといのち何でも相談会」は以後10年間毎年開催しており、昨年度も25か所で開催し87名の相談がありました。今年も12月から翌年1月にかけて開催いたします。コープ共済連様のご活躍、ご発展をお祈り申し上げます。



今はなき、大原さんち

東京西部保健生活協同組合 長島 晴美 (ながしま はるみ) 様

詩人の大原富江(おおはら とみえ)さんが東京でお住まいになっていた家(茶室)をお借りすることになりました。地域の組合員さんが、空き家になっていることを知り、管理されている高知県本山町の方にお問い合わせに行ったのです。2階建ての茶室兼お住まいの家はエアコンもなく、そのままでは使えず、コープ共済連に助成金の申請をし、エアコンやデッキ等の改装費を補助していただきました。他の生協さんにも貸し出したり、秋には、秋刀魚を庭で焼き、ご近所からの苦情もいただきました。干しいも作りや染物作り、地域の子どものふれあいの場を持つたり、高齢の方の集まる場、庭があり、自然がたくさんありました。おばあちゃんちに来たようなゆったりとした時間を過ごすことができました。本山町が自然災害に合い、資金が必要になり、売ることになったのです。利用していた方は大変、苦しい思いをされていました。



大震災山元支援から

みやぎ県南医療生活協同組合 渡辺 建寿（わたなべ けんじ）様

初めに

2011年3月11日の東日本大震災からまもなく12年が経過します。この間私たち医療生協の職員や組合員さんは震災の被害の大きかった宮城県山元町（やまもとちょう）を中心に被災した方々の支援を多くの団体の方々と共におこなってきました。10年を経過して被災した方々は災害公営住宅などをはじめそれぞれが生活を再建しながら暮らしております。私たちは今も災害公営住宅やいくつかの地域で支援の継続として安心して暮らせる一助として毎月健康教室（いきいき教室）などを開催しております。

医療福祉生協加盟の協同組合からたくさんの支援物資をいただきこの提供が最初の活動でした。そしてがれき撤去や住宅の整備なども実施してきました。はるか神戸や大阪、香川県などからも半日をかけて大型バスでかけつけてきてくれた多数の職員や組合員さんが支援活動に大きな力を発揮してくださいました。2011年は金曜日の業務終了後出発し土曜の支援活動終了後にまた12時間かけて帰り月曜日から業務に復帰するという強行軍の支援がつづきました。被災した方々は勿論のこと全国でも最も小規模の医療福祉生協の私たちにも大きな励ましとなりました。活動に参加された皆様にせいいっぱいの感謝を申し上げます。

この10年の活動のなかで様々なエピソードがありますがその中の一つをご紹介します。

被災地支援活動のなかから

被災者さんたちも緊急の避難所から仮設住宅へ入居するなかで少しでも元気に安心していただける生活の一助として私たちは山元町に11か所ある仮設住宅を支援の方々と一緒に毎月訪問して健康状態のチェックや少しでも心をやすめていただけるように、心のケアもかねてストレッチ体操や楽しい企画をおこなってきました。（これはいきいき教室として今も継続しています）。その中で伴奏のキーボードとギターでみんなで歌を歌うことにしていました。この中で一番最初に“ふるさと”を歌おうとして始めようとしたのですが被災者さんから“この歌はやめて！！”との声がありました。この歌を聴くと自分のふるさと、我が家の悲惨な状況が思い浮かぶとの気持ちからでした。私はこれを聞いてまさにその通りと思わずやめて、相応しい曲をと考えて坂本九の上を向いて歩こうにきりかえました。まさに涙がこぼれないように下向きになりがちな自分も励ますこの歌が仮設の集会所に響きました。でもやっぱり涙が流れた方も。それでもしばらく後には“ふるさと”もメニューにはいる様になりました。この歌のもつ幼いころの故郷への憧憬がころから歌える気持ちにだんだんなっていったからでしょう。それからは手話もいれてこの歌は歌うようになりました。仮設から災害公営住宅に移っても最後は歌になります。今も2011年4月に私たちのデイサービスで行った山元町の被災者さんの入浴サービスに参加した被災者さんが、毎月の災害公営住宅のいきいき教室に参加されています。



手しごとコミュニティと居場所

特定非営利活動法人応援のしっぽ 広部 知森（ひろべ かずもり）様

最初は、みやぎ生協様の担当者からの一言「手作り商品のカタログ制作と一括受注発送をやってみないか」という提案でした。

当時、みやぎ生協様や協働団体と共に手しごとコミュニティの運営支援をおこなっていたのですが、会話をしたくない方でも参加でき、お金がもらえ、一心に手を動かすことで癒され、何より「社会に必要とされている」という意識につながりました。様々なつながりを失った方々の居場所になりました。生きていることに罪悪感を感じなくてすむ居場所、そんな居場所を作る活動を支えていきたい、私はそう思っていました。

そんな折に、みやぎ生協様からの提案と最大限の協力はするという応援の言葉に、悩みに悩んで、手しごとコミュニティの一括受注発送を始めた記憶があります。

受注体制の構築と地域の方々が集まれる店舗兼居場所づくりに「地域ささえあい助成」に3年間継続してお力添えいただきました。カタログ制作や発信では、みやぎ生協様が親身になってくださり、そこからコープこうべ様にもお世話になり、現在ではコープ共済連様を通して、全国の会員生協様からノベルティグッズを受注いただけるまでになりました。

「作ったもん買ってくれる人がいるなら、必要とされてるってことっちゃ。それを作ってる私らも生きていんだっちゃ。」2013年3月、作り手の一人の言葉です。

みやぎ生協様からの一言は、今も、皆様からの応援の下で、少しずつ形を変えながら事業として続いています。





「人間らしくつながり支えあう！」このチャレンジに終わりなし！

生活協同組合しまね・松江保健生活協同組合 野津 久美子（のつ くみこ）様

2008年「松江保健生協」「生協しまね」「おたがいさま」の3団体は「地域づくり研究会」という小さな種を蒔いた。2009年「高齢組合員1,000人アンケート」を実施、一人一人の暮らしと地域課題が見えてきた。「一緒に考えましょう」と地域の諸団体（行政、JA、自治会、社協、包括等）に足を運ぶも関係づくりに四苦八苦。同じ地域に住むものどうし、共に課題に向き合いたい…。そして2011年3月、あの大震災が起きた。忘れもしない、その日は私たちの研究会の日。すぐに始まった全国からの被災地支援。生協のつながりもまた、大きな存在感を示した。「私たち、もっとやれるかも！」被災地支援は、私たち自身をもエンパワーしたようだ。加えて、大きな学びは、生協を超えてつながることの大切さ。「多様につながって課題解決！生協が発信！」それらを応援してくれる「地域ささえあい助成」に背中を押してもらい、私たちの熱い『想い』が根気よくじわじわ『カタチ』になっていく。「地域ケア連携推進フォーラム」の積み重ねは「地域つながりセンター」を生み、拠点事業は現在5つ。「おたがいさま」「フードバンク」「子ども食堂」の連携で確かな花芽も育っている。出雲市では4つの生協が核となり行政・社協・包括支援センター・ケアマネ協会との連携事業の芽も。生協、行政、社協や諸団体、企業、そして地域の多くの人々と多様に交わりすすめていく「協働」の力が「新しい支えあい」の花を咲かせていく。



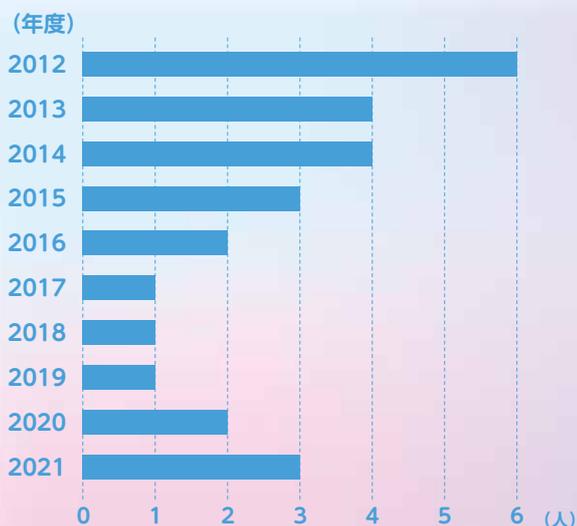
初動時からの温かい支援に感謝

フードバンクしまねあったか元気便 大木 理之（おおき ただし）様

2019年から3年間にわたり助成をいただきました。兔に角、何にもありませんでした。お米も食品はもちろん、それを集める術も、そして、なによりもお金。「就学援助世帯」の28世帯からはじまり、この冬には360世帯、約1,300人の家族に食品を届けるまでの広がり。「支える輪」も、フードドライブ参加の公民館や団体・企業が100を超え、のべ1,000人のボランティア参加に。『困ったとき』は、おたがいさまのまちづくり、「地域子どもたちは、地域のみんで育てるまちづくり」を掲げた取り組みは、「点」から、はじまり「面」へ、そして、まちづくりの輪へと広がりつつあります。ないないづくしの取り組みに手を差し伸べていただいたのが「地域ささえあい助成」です。なにより取り組みへの「励まし」になりました。4人がかりで半日かかった手書きの宅急便の送り状も自動化に、食品棚を購入でき、一時保管倉庫もできあがり「臨時のスポット応援」にも対応できるようになりました。広がり舞台裏でしっかりと支えていただきました。今、私たちは、新たに公民館や大学生といっしょに「お昼ごはん+学習応援」や「おたがいさままつえ」や地域つながりセンターと取り組む「おかあさんのためのレスパイト応援」など、これまでの食品提供から、利用者の8割を占める「母子家庭」への「くらしと子育て応援へ」取り組みのウィングを大きく伸ばすことにチャレンジ中です。

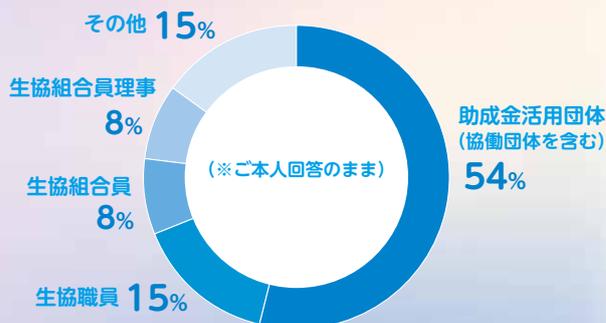
【言葉解説】レスパイト…「一時中断」「小休止」「猶予」などを意味する言葉。

助成金を活用して活動した年度



※複数年に渡って助成金を活用された団体もあるため作文数とは一致しません。

作文を書いてくださった方々





成長期の栄養としての「地域ささえあい助成」

特定非営利活動法人ソーシャルビジネス推進センター 相内 俊一（あいうち としかず）様

初年度の助成は、コープさっぽろ、小樽商大ビジネススクール、北翔大学による試行錯誤の社会実験期（2010年～2012年）を経て、NPOを立ち上げて本格的な取り組みに入って2年後にあたります。札幌から日帰りで指導者を派遣できる自治体を対象にした安定経営路線から、過疎と高齢化で困っている遠隔地の自治体の要望に応えられるビジネスモデルに、いつ、どのように転換できるかが「まる元」の課題でした。2014年度の助成で、指導スタッフを北海道内の各地に定住させ、その圏内で指導にあたるシステムへの転換で、過疎地の需要に応えられるようになりました。2015年度には念願の認知症予防活動の導入、2016年度には常勤スタッフの増員が可能になりました。（2022年度は常勤指導スタッフ12名、非常勤1名）助成期間中に2度、事務局の方たちが視察に来られました。とても細やかに私たちの活動を見てくださり、参加者の皆さんや自治体の担当者からもヒヤリングをされるなど、助成する側の「本気度」が感じられ、私たちも嬉しく思いました。議員を目指す女性を立候補前から支援する全米組織、EMILY'S LISTの名前は「初期の資金支援は、パンだねを膨らませるイーストの効果だ」（Early Money Is Like Yeast）という意味が込められています。「まる元」にとって、地域ささえあい助成は、成長のためのイーストでした。

これからは、これまでの「まる元」づくりの経験知を全国の生協と共有して「健康づくり」に貢献したいと思っています。



スタート時の助成金活用が現在の活動展開の基礎

認定特定非営利活動法人フードバンク信州 美谷島 越子（みやじま えつこ）様

フードバンク信州は「食品ロス削減」と「困窮者支援」の2つの課題をつなげて地域づくりをすすめることを目標に2016年に設立されました。当時この目的、趣旨に賛同する長野県生協連、長野県労福協、JA長野中央会、長野県NPOセンターなどの関係団体が参加し、コンソーシアム型の組織でスタートしました。

活動開始1年目の課題はまず活動への認知度をアップすることでした。財源基盤が整わない中で、構成メンバーの長野県生協連から、「地域ささえあい助成」の利用を勧めていただき、活動の普及・啓発のためホームページを作成しました。今、思い返しても1年目の助成金利用は活動の第1歩を踏み出すために大きな力になったと感謝しています。

2年目、3年目の助成金は、県内全域で活動を展開するための本部と地域拠点（4か所）を結ぶ車両レンタル料などの基盤整備に利用させていただき、現在の活動につながる基礎を築くことができました。

法人発足から6年目となり、現在は食の循環システムの構築事業に取り組んでいます。コロナ禍や物価高騰の影響で食料資源の効果的な活用が求められている中で、食料寄贈と支援ニーズのマッチングシステムを構築し県内の関係団体が利用することで、食料循環が効果的にすすむ社会が実現できればよいと願っています。



福祉マップ作成を通じた初めての協働の取り組み

生活協同組合コープみらい 組合員理事 林 幸子（はやし さちこ）様

私がコープみらいの千葉2区ブロック委員会の委員長になった年のことです。佐倉市社会福祉協議会を通じて「地域ささえあい助成を活用し（佐倉市内）千代田地区福祉協議会の福祉マップづくりに協力してもらえる生協はないか？」との問い合わせが入り、巡り巡って千葉2区ブロック委員会に声が掛かりました。当時、佐倉市内での活動を模索していたこともあり、まずはブロック委員メンバーで「福祉マップ委員会」に参加してみました。互いの活動を知らないまま委員会に参加することとなり、メンバーも「協働の取り組みと言われても何を一緒にやればいいのか？自分たちの活動で手一杯なのに」と困惑する場面もありました。しかし、一緒に編集作業をしたり、活動の情報交換をしたり回を重ねてようやく「地域で活動する人たちとつながり、安心して暮らせるまちづくりに貢献したい」という想いは同じだと知ることができました。完成後は千葉2区ブロックのニュースでお知らせしたり、講演会や認知症サポーター講座などを共催しました。最終的に「全国ボランティアフェスティバルふくしま」でも事例報告しました。当初は感う気持ちもありましたが、互いの活動を知って歩み寄ることから始めればよいという想いは、その後の活動にも継承されています。私は組合員理事になり千代田地区福祉協議会と当時のようなつながりはありませんが、今年は佐倉市社会福祉協議会にお米を寄贈する取り組みを通じブロック委員と新たなつながりが生まれています。





地域諸団体・住民と創り上げた移動店舗事業

いばらきコープ 大高 好文 (おたか よしむみ) 様

2012年5月、いばらきコープは、茨城県牛久市で、移動店舗事業「移動店舗ふれあい便」を開始しました。いばらきコープにとっては、1年前に水戸市でスタートした1号車に次いで2号車となる取り組みでした。牛久市で始めるきっかけとなったのは、牛久市社会福祉協議会からの熱いお誘いコールでした。「高齢化が進行する中で、買物に困っている住民が増えているが、コープが始めた移動店舗を牛久市でもやるのができないか!」というものでした。水戸市での経験を通じて、地域諸団体や地域住民の方々との連携・協力がなくして事業成功はありえないという確信のもと、牛久市長・牛久市社会福祉協議会事務局長・当生協理事長等各組織のトップ懇談のテーブルを設定して意見交換・合意形成がおこなわれ、三者による「牛久市買物支援ふれあいのまちづくり推進協議会」が結成され事業推進がはかられてきました。「移動店舗ふれあい便」は、1.5トントラックの荷台を改造して、冷蔵庫・冷凍庫・陳列棚・レジ台等を設置し、野菜・果物・鮮魚・肉等の生鮮品の他、一般食料品・雑貨品等約400品目の商品を積んで、月曜～金曜の週5日営業で地域住民からの要望が強いエリアの停留所を巡回しています。早いものであれから10年、現在は異なる部署に勤務していますが、今でも脳裏に強く焼き付いているのは、巡回先で買い物をしてくださったお客様の笑顔、停留所づくりに献身的に奔走してくださった区長さんや諸団体のリーダーの方々、そして、この事業の立ち上げから軌道に乗るまでの経営的にも厳しい時期に「CO・OP共済 地域ささえあい助成」で財政的に援助していただいたことです。



あれから10年、助け合い活動の広がりと充実を実感

福祉クラブ生協 成年後見サポート W.Co あうん 五十嵐 恭子 (いがらし きょうこ) 様

助成を受けた2012年は、まだ財政的基盤も脆弱であったため、助成金により神奈川県内の(地域)包括支援センター(以下「包括」)を多数訪問でき、事業のアピールと共に各地域の事情についても知ることができたことは、後の活動に大いに役立ちました。

以後も、県内の行政、「包括」、社協への訪問を引き続きおこなってきました。協同団体は、成年後見に携わるNPO法人、弁護士等に広がり、2015年からは横浜市社協主催の「よこはま法人後見連絡会」に参加しています。

「包括」等からの相談依頼も増加しており、任意後見契約を含む総合支援契約の締結に至った事例もあります。昨年には、包括から法定後見受任依頼があったものの、本人の申し立て取り下げにより実現しなかった事例がありました。公開セミナー&無料相談会開催やHP開設など地道に広報活動を継続し、相談件数、契約数ともに増加しています。

現在は、総合支援契約者数48件(内任意後見発効2件、累計98件)となり、法定後見2件を受任しています。10年前には15件でしたので、約3倍に増加したことになります。メンバー数も、当時の25名から47名に倍増しています(今年11月現在)。

福祉クラブ生協内の他W.Coへの発信も続けています。契約者の支援にあたっては、福祉クラブ内外のケアマネ事業所、介護事業所、移動サービスW.Coと協同しあい、福祉クラブ生協の地域助け合い活動の一画となって活動しています。

【言葉解説】後見(こうけん)…民法において、制限行為能力者の保護のために、法律行為・事実行為両面においてサポートをおこなう制度です。未成年後見制度と成年後見制度があります。また、後見人(後見事務をする人)の決め方の相違により「任意」「法定」があります。

W.Co…ワーカーズ・コレクティブ

活動地域(都道府県名・作文数)

宮城県 ずんだ餅 2件	東京都 東京スカイツリー 1件
千葉県 九十九里浜(サーフィン) 2件	神奈川県 横浜中華街 1件
島根県 出雲大社とシロウサギ 2件	長野県 スキー 1件
北海道 雪まつり 1件	兵庫県 神戸牛 1件
茨城県 ×ロン 1件	高知県 カツオ 1件



■コーすけ誕生10周年を記念して、47都道府県のご当地コーすけが登場しました。

そこで、活動地域の「ご当地コーすけ」のイラストを各作文のタイトル冒頭にも掲載しました。コーすけが応援するご当地の名産や名所をお楽しみください。

■コーすけ10周年記念サイト

<https://cosuke.coopkyosai.coop/10th/>



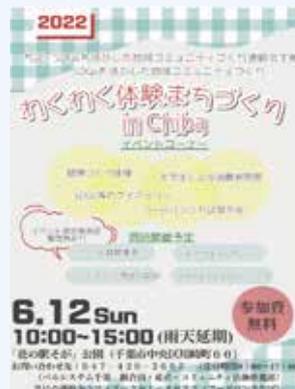
地域ささえあい助成事業に参加して

淑徳大学コミュニティ政策学部コミュニティ政策学科4年 手崎 亮佑（てさき りょうすけ）様

私は、淑徳大学コミュニティ政策学部消費者法研究室に所属し「千葉・SDGsを活かした地域コミュニティづくり」に参画しています。研究室が主催する企画としては、「SDGsと消費・労働に関する学習会」と題して実施しています。こうした学習会は、企画から周知・募集、講義、運営に至るまで、すべて大学生が主体的に取り組み開催されています。学生自身が講師役を務めることにより自立的な学びにつながり、企画・運営を通じて事前準備の大切さを学びました。また、フリーディスカッションを通して、学ぶだけでなく、参加された方々とのネットワークづくりにも貢献できたと考えています。

また、今年6月に開催された「わくわく体験 まちづくり in ちば」では、消費者問題クイズラリーを企画して、クイズを通じて地域の方々との触れ合いの機会を得ることができた住民参加型のイベントでした。こうしたイベントを通じ、今後も地域コミュニティの発展のために、できることから一歩ずつすすめていくことが重要です。地域の魅力や関わる全ての人が活動を通じて幸福度を高めることが大切であると考えています。

未来に残る地域の形成がこの取り組みの大きなテーマであり、私達学生も積極的に今後もこの取り組みに参加することによって、さらに地域住民との共生に貢献できると思います。今、積極的に活動し始めている活動の灯を消さないことが重要であると考えます。



コロナ禍に実現した地元の高校生との地域活動

生活協同組合コープこうべ 前田 裕保（まえだ ひろやす）様

大庄元気むら（おおしょうげんきむら）は、2019年9月にコープ大庄を営業終了した後、地域の居場所として同年11月リニューアルオープンした。

大庄元気むら周辺は単身の後期高齢者が多いのが特徴だ。その孤独な立場にある高齢者に社会とのつながりをつくっていく。それは高齢者だけではなく、多世代がつながり合う。そんな交流の場を目指していたところ、最寄りにある県立尼崎西高校の先生から「地域活動を通じ社会性のある生徒を育てたい」と提案があり、高校生と地域住民がコラボイベントを開催することに。

大庄元気むら運営委員が高校生と話し合いを重ね、同年12月に「合同文化祭」を計画。

コロナ感染拡大に伴い中止案も出たが、コロナで中止を余儀なくされた助成金申請分をコロナ感染対策費として柔軟に対応できるよう制度変更があり、自動手指消毒機やアクリル板などの購入といったコロナ感染対策に活用できたのだ。これにより3日間の文化祭を無事開催することができた。

結果、地域住民からは「高校生の斬新なアイデアや解決策に驚いた」「住民が元気になった」など前向きな感想が多く、また、高校生からは「自分たちの活動を知ってもらえてよかった」「自信ができ、自己肯定感ができた」との感想があった。

合同文化祭以降、県立尼崎西高校と大庄元気むらは良好な関係が続いており、防災イベントや、認知症予防講座、地域の清掃活動にも高校生が参加するなど世代間交流は日増しに活発になっている。

副賞イメージ（誕生から10周年を迎えたコーすけのノベルティグッズ）



コーすけノベルティセット A

商品名
コーすけふせん（小）
コーすけクリアファイル 2019
コーすけクリアファイル 2021
コーすけ絆創膏
コーすけフェイスタオル
コーすけハンドタオル 青
コーすけハンドタオル 黄
コーすけノート
コーすけティッシュ
エコバッグ 赤
エコバッグ 紺
マグネット



10周年記念企画 第6弾「2022年度助成金活用団体への記念特典」 誕生10周年を迎えたキャラクター「コーすけ」のノベルティグッズ進呈

「CO・OP共済 地域ささえあい助成」10周年を記念して、2022年度の助成金活用団体の皆様へ、誕生10周年を迎えたCO・OP共済ブランドキャラクター「コーすけ」のノベルティグッズをプレゼントする企画を実施しました。おかげさまで30件のお申し込みをいただき、大好評のうちに終了しました。ノベルティグッズをお届けした助成金活用団体様からSNSやメールで嬉しいお言葉や写真を共有していただきましたのでご紹介します。

ノベルティグッズのお申し込みランキング

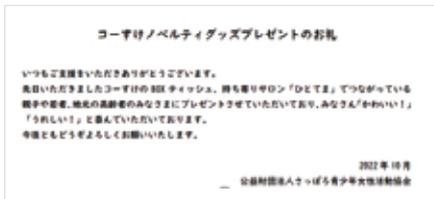
1	コーすけノート	8件
2	CO・OP共済 ミニラップ ボックスティッシュ	6件 6件
3	ノック式ボールペン	4件



画像のノベルティグッズは2022年8月時点のものです

活用事例のご紹介

公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会 様



【ツイッターや多くの写真とともにご報告いただきました。】
ツイッター <https://twitter.com/itoconchi>



群馬中央医療生活協同組合 様

【毎週水曜日開催の「ちいさなやさしさ市場」来場者にプレゼント】
ツイッターにてご紹介いただきました。
ツイッター https://twitter.com/gunchu_coop



愛媛医療生協 共同農園レインボーファーム 様

【会員と無人販売「火曜日」の利用者懇談会などで配布】
メンバー間での情報共有ツールの「レインボーファーム情報」（週次発行）を送信される際のメール本文にてご紹介いただきました。
「レインボーファーム情報」はいつも素敵な写真と一緒に事務局へもお送りいただいております。
HP <https://farmrainbow.wixsite.com/mysite/top>



「10周年記念特設ページ」のご紹介とまとめ

「10周年記念特設ページ」はCO・OP共済オフィシャルホームページ内で閲覧できます。こちらは画面のイメージです。



10周年記念企画のまとめとして

企画の終盤を迎えて

昨年2021年度活動報告集には、審査委員、事務局の視点からの振り返りを掲載しましたが、今回は、助成金を活用していただいた生協や団体の視点からの振り返りとして「10年間のエピソード作文」企画の入選作文を掲載しました。それぞれの作文につづられた、発展を遂げた取り組み、終焉を迎えた活動、紐解かれた10年の歴史などを拝読し、本助成制度が果たした役割りと、地域で活動する皆様の真摯な想いに胸を熱くしました。ご応募をいただきました皆様に改めて感謝申し上げます。

そして、これからの未来に向かって…の視点から「2022年度助成金活用団体への記念特典」としてCO・OP共済ブランドキャラクター「コーすけ」のノベルティグッズを進呈する取り組みも実施しました。各生協や団体の皆様からは、ノベルティ活用の様子をSNSで発信いただいたり、事務局あてに写真を寄せていただき、大変有難く思いました。

そして何より、これまでに本助成制度を支えてくださった皆様と、時を超え、またつながれたことを心から嬉しく思いました。

事務局総括として

「10周年」という記念すべき節目に立ち会うことができた事務局として、様々な角度から本助成制度を振り返り一番に感じたことは、この10年、本当に多くの人々に支えられてきたことについての感動と感謝、そして、本助成制度をより良いものに育てていきたいという強い思いでした。地域で活動されている生協や団体の皆様はもちろんのこと、制度の設計から関わり10年間審査委員長をおつとめいただいた上野谷加代子先生、歴代の審査委員の皆様、そして日本生協連、コープ共済連の職員で事務局として関わったすべての皆様に改めて感謝申し上げます。

2022年度は、齊藤弥生先生を審査委員長にお迎えし、審査委員の皆様と一緒に新たな一歩を踏み出しました。事務局一同、10年の想いを未来につなげ、学びながら、本助成制度を支えてくださる皆様と共に地域共生社会の実現にむけ取り組んでまいります。引き続きのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

日本コープ共済生活協同組合連合会 総合マネジメント本部 組合員参加推進部 部長 田中 美樹 (上)
日本生活協同組合連合会 組織推進本部 社会・地域活動推進部 部長 片野 緑 (下)



地域ささえあい助成事務局からのお知らせ

「CO・OP共済 地域ささえあい助成」のホームページのご紹介

CO・OP共済オフィシャルホームページ内に地域ささえあい助成のページを開設しています。このページでは、地域ささえあい助成の概要のご紹介のほか、本誌やこれまでの助成実績を掲載しています。また、2024年度助成の募集情報や応募書類も順次掲載していきます。応募の説明動画もぜひご活用ください。また、このページ内に地域ささえあい助成の10周年を記念した特設ページを開設しています。今号と前号の活動報告集でご紹介した各10周年企画の記事もお読みいただけます。

◎ <https://coopkyosai.coop/csr/socialwelfare/>



「CO・OP共済 社会貢献の取り組み 登録制ページ」のご紹介

助成金活用団体のみ閲覧可能な登録制ページでも、随時、助成に関するご案内や各種セミナーのご紹介など、様々な情報を発信しています。

◎ <https://kouken.coopkyosai.coop/>



コーすけブランドサイトのご紹介

CO・OP共済オフィシャルホームページ内の「コーすけとCO・OP共済」では、ペーパークラフトや壁紙、ぬりえなど、コーすけの楽しいツールをご用意しています。ぜひ、ダウンロードしてご活用ください。

- ◎ PC版 <https://cosuke.coopkyosai.coop/download/>
- ◎ スマホ版 <https://cosuke.coopkyosai.coop/sp/download/>



「CO・OP共済 地域ささえあい助成」のロゴとバナーのご紹介

助成金活用団体の皆様には活動時に地域ささえあい助成のロゴやバナーを活用いただいています。各団体の活動報告に掲載の写真でも活用のご覧いただけます。



地域ささえあい助成
—生協と生協以外の団体の協働を応援します—

「CO・OP共済 地域ささえあい助成」の2023年度スケジュールのご案内

4～5月	助成金のご入金
6月頃	「協働たかめる助成」募集情報のご案内開始
8月頃	「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」募集情報のご案内開始 フレンドリーサポートのアンケート実施
9月頃～12月頃	フレンドリーサポートのヒアリング実施
10月26日(木)	2023年度の団体交流会
10月15日(日)～11月15日(水)	2024年度助成の応募受付
3月下旬	2024年度助成の審査結果通知
3月末日	2023年度の活動報告・収支報告締め切り

2024年度助成から開始する「協働たかめる助成」のご紹介

地域ささえあい助成は、2021年度末に10周年を迎えたことから、これまでの振り返りと新制度の構築をすすめてきました。そして、2022年度助成から、新制度の「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」を開始しました。これに加え、2024年度助成からは「協働たかめる助成」を開始します。

この「協働たかめる助成」では、生協と地域の複数の団体が協働して地域の多様な課題に取り組む活動を、2～3年間にわたって年500万円を上限として助成していきます。

詳しくは次ページからの募集チラシや、6月頃に公開予定の募集情報をご確認ください。



地域ささえあい助成

—生協と生協以外の団体の協働を応援します—

「協働たかめる助成」2024年度募集のお知らせ

CO・OP共済は、2012年度から「地域ささえあい助成」を通じて、だれもが安心してくらせる地域社会の実現をめざし、生協と生協以外の団体が協働して地域の課題に取り組む活動を支援しています。本助成制度の2024年度助成分からは、従来の「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」に加え、「協働たかめる助成」の募集を開始します。

「協働はじめる助成」では、生協と地域の団体がはじめて協働する活動を助成しています。「協働ひろめる助成」では、生協と地域の団体が協働関係を広げたり深めたりしながら取り組む活動を助成しています。そして、「協働たかめる助成」では、広がった協働関係を持続的なものにしながら、地域の多様な課題に向きあい、人と人、組織と組織のつながりの力で解決していこうとする取り組みを支援していきます。

● 応募受付期間

2023年10月15日(日)～11月15日(水)

※受付開始前にもお気軽にご相談ください。

● 募集対象団体

生協が窓口となってお応募ください。

● 助成期間

2024年4月1日～2年間または3年間

※応募時に2年間または3年間を選択し、該当期間分の計画をご提出ください。

● 助成金額上限

年間500万円 × 最長3年間
= 最大1,500万円

※年度によっては、新規の募集をおこなわないか、新規の助成が1～2件となることがあります。

● 助成対象となる活動

地域共生社会の実現に向け、生協と生協以外の団体が協働して取り組む、以下のいずれかの内容の実践的な活動です。

- ① 社会課題や地域課題の解決に向けた、地域における活動
- ② 暮らしに身近な課題やまだ広く知られていない課題の解決に向けた、地域における活動
- ③ 人と人や組織と組織をつなげ、取り組みを発展させていくための活動

● 応募要件

以下のAとBのいずれも満たす活動が応募できます。詳しくは応募要項でご確認ください。

A 地域をささえつづけるために協議体をもつことで運営の安定をはかっていること

B 地域の多様な課題の解決に向けてさらなる取り組みを展開しようとしていること

※各要件に関する具体的な確認項目をすべて満たす場合にのみ応募いただけます。



助成対象となる費用

助成を受ける活動に直接かかる費用（事業費）、または助成を受ける活動について協議する場（協議体）の運営にかかる費用（管理費）



応募スケジュール

応募受付期間	2023年10月15日～11月15日
助成決定	2024年3月中旬
審査結果通知	2024年3月下旬（メール通知）
助成金のお支払い	2024年4月～（初年度分）



選考方法

外部有識者およびコープ共済連、日本生協連関係者で構成する審査委員会にて審議のうえ、決定します。



応募方法

応募要項・応募用紙等は下記のホームページからダウンロードしてください（6月頃に掲載する予定です）。応募要項等をよくお読みいただき、必要書類を事務局宛にメールでご送付ください。

URL <https://coopkyosai.coop/csr/socialwelfare/>

3つの協働区分のちがい（「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」「協働たかめる助成」）

協働の状況等に応じて、いずれの協働区分に応募するかご検討ください。

協働区分	協働はじめる助成	協働ひろめる助成	協働たかめる助成
協働の状況	生協と団体が初めて協働して活動をこれから始める場合、もしくは協働した活動の開始から1年未満の場合	生協と団体の間にすでに1年以上協働して活動した実績があり、その協働をさらに広げて活動する場合	生協と団体の間にすでに1年以上協働して活動した実績があること、助成開始時点で協議体が立ち上げられていること、協議体を構成する団体が3団体以上であること
窓口団体	生協または生協以外の団体	生協を推奨	生協のみ （生協以外の団体からは応募不可）
助成期間	1年間	1年間	2年間または3年間（応募時に選択）
助成継続期間	一連の活動に対して1回（1年間）	一連の活動に対して最大3年間（「協働はじめる助成」の助成期間を含めます）	3年間まで（「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」の助成期間は含めません）
助成金額上限	1つの活動について50万円	1つの活動について100万円	1つの活動について、年間500万円×最長3年間＝最大1,500万円
助成金総額上限	「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」合計で年間2,500万円程度		年間2,000万円程度



制度全般に関するお問い合わせ先・応募書類送付先

日本コープ共済生活協同組合連合会（コープ共済連）
組合員参加推進部 地域ささえあい助成事務局
TEL **03-6836-1324**（平日10:00～16:00）
メール **contribution@coopkyosai.coop**



協働に関するお問い合わせ・ご相談先

日本生活協同組合連合会（日本生協連）
社会・地域活動推進部 地域コミュニティグループ
TEL **03-5778-8135**（平日10:00～16:00）
メール **chiiki-comm@jccu.coop**

CO・OP共済 地域ささえあい助成の詳細はホームページでご案内しています。

URL <https://coopkyosai.coop/csr/socialwelfare/>

※「協働たかめる助成」の詳細（応募要項・応募用紙等を含む）は6月頃に掲載する予定です。

CO・OP共済 地域ささえあい助成 2022年度 活動報告集

発行日：2023年6月

発行元：日本コープ共済生活協同組合連合会
総合マネジメント本部 組合員参加推進部
組合員参加・社会貢献活動グループ
地域ささえあい助成事務局
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-1-13
電話 03-6836-1324
メール contribution@coopkyosai.coop
CO・OP共済オフィシャルホームページ
<https://coopkyosai.coop/csr/socialwelfare/>



CO・OP共済

SNS公式アカウント



facebook フェイスブック



Instagram インスタグラム



LINE ライン



YouTube ユーチューブ



www.fsc.org

ミックス
紙 | 責任ある森林
管理を支えています
FSC® C170021



この製品はノンVOC
インキを使用し、エコ
UV印刷機で印刷して
います。

UD
FONT

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。